（一）事　業　報　告　書

1．基礎研究

当法人は、日本の胸部外科領域において心臓血管外科学発展の礎を築いた故榊原仟等が、我が国循環器医学の画期的進歩を促すために1967年に設立した公益法人である。当時故石坂泰三氏ら経済団体連合会関係者の支援を得て、1968年に先進諸国に劣らぬ研究施設を開設し、これを全国の優秀な研究者に「公募研究助成」とともに当時最新鋭の機材を備えた研究施設活用の途を提供して循環器医学に関する研究を支援してきた。本研究助成は、2017年度までに50回、延419件（助成総額約5億9000万円）の研究支援を実施した。

2003年度に細田瑳一理事長（当時）は、全国の循環器研究の指導者から循環器の基礎及び臨床研究を行う40歳未満の研究者に研究費を助成する必要性に強い要望があったことから「榊原記念研究助成」を始め、現在に至っている。毎年公募される研究は、研究委員により審査採択され、その研究成果は、学術研究雑誌等で広く世界に発信されるとともに、当財団事業報告書や研究業績集に収蔵・記載している。

当財団としては、引き続き循環器医学の先駆的研究機関として、若手研究者に対する研究助成と国民の健康増進と福祉の向上に寄与する為、連携する臨床研究施設である榊原記念病院（東京都府中市）や 榊原記念病院附属クリニック（東京都渋谷区）にて心臓循環器疾患の患者を国内外から受け入れている。

⒜ 研究助成

1）榊原記念研究助成（第23回）

本助成は、循環器の基礎および臨床研究に従事する40歳未満の若手研究者個人を対象にした研究費助成事業である。

2003年度より毎年公募を行い、最大5件を採択している。2025年度（第23回）は助成対象課題を「虚血性心疾患の病態と診断・治療研究」として公募し、永井良三理事を委員長とする研究委員会の厳正な審査の結果、4件が採択された（下表参照）。採択された研究は、２年の研究期間終了後、「研究成果発表会」および「研究業績集」にて研究の概要を発表する予定である。

第23回（2025年度）榊原記念研究助成金研究題目

研究期間：2025年9月～ 2027年8月

No.	研　究　題　目	所　　属	研　究　者
1	心臓線維芽細胞の異常に起因する交感神経線維の恒常性破綻の機序解明と心不全治療への応用	名古屋大学大学院 医学系研究科腫瘍病理学 学振特別研究員（DC2）	浦野　友哉
2	心筋梗塞急性期における心筋組織中の好中球細胞外トラップによる心筋リモデリングの制御機構の解明	東京大学大学院 医学系研究科循環器内科	戴　　哲皓
3	心筋梗塞における MITOL 発現低下の分子機構解明と新規治療戦略への応用	自治医科大学 分子病態治療研究センター 再生医学研究部	徳山　剛士
4	心筋 PET と AI を用いた Radiomics による心筋再生医療の効果判定と適応基準の作成	東京女子医科大学 循環器内科学、画像診断学・核医学分野兼務	山本　篤志

（敬称略・五十音順）

2）榊原記念研究助成 研究成果発表会

第21回（2023年度）榊原記念研究助成採択者による研究成果発表会を、第279回日本循環器学会関東甲信越地方会と共催し、以下のとおり開催した。

日　時：2026年2月14日（土）13：00 ～ 16：30

場　所：ステーションコンファレンス東京 4階 402A（研究成果発表会）

および 6階 第Ⅵ会場（第21回特別講演）（東京都千代田区丸の内1-7-12）

＜式次第＞

◯理事長挨拶

◯第23回榊原記念研究助成採択者 贈呈式

◯第21回榊原記念研究助成 研究成果発表会

『心不全に迫る：基礎と臨床から』

座長：吉川勉先生（公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院顧問）

（発表：１題10分、質疑応答：5分）

No.	研　究　題　目	所　　属	研　究　者
1	急性心不全に対する網羅的蛋白質解析による 個別化医療の確立	Broad Institute of MIT and Harvard 九州大学大学院医学研究院 循環器内科学	円山　信之
2	シングルセルマルチオミクス及び細胞形態評価の 統合解析に基づく難治性肥大型心筋症病態解明	東京大学医学部附属病院 循環器内科	候　　聡志
3	心房中隔欠損大規模スクリーニング技術の開発 ～ AI による心電図自動解析を用いて～	東海大学医学部医学科 総合内科	後藤　信一
4	心不全における非心筋細胞の役割の全貌解明と 多臓器連関の解明に基づく新規治療法開発	東京大学大学院医学系研究科 / 慶應義塾大学医学部 循環器内科	小室　　仁
5	生体膜リン脂質リモデリングが心不全に与える 影響の解明 – リゾリン脂質アシル基転移酵素7 （LPLAT7）に注目した検討 –	University of Cambridge 東京大学医学部附属病院 循環器内科	武城　怜史

（敬称略・五十音順）

◯第21回特別講演

第279回日本循環器学会関東甲信越地方会「教育セッションⅢ」

セッションテーマ：『循環器医療の提供体制：現状と今後の課題』

座　　長：磯部光章先生（公益財団法人榊原記念財団 附属榊原記念病院 院長）

講　　師：鶴田真也先生（厚生労働省 健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長）

「循環器病対策推進基本計画と今後の展望」

講　　師：新井悟先生（東京都医師会 参与、河北総合病院心臓血管外科）

「循環器医療従事者の減少にどう立ち向かうか」

講　　師：上田哲郎先生（東京都立病院機構 副理事長、元都立墨東病院 院長）

「大都市東京の循環器医療～過去，現在，そして将来を考える～」

２．法人本部における研究会活動

当財団には30の研究会があり、循環器医学の進歩を期し学際的、国際的に研究活動を行っている。それぞれの事業報告は以下のとおり。（順不同）

⑴　医療専門職研修教育プロジェクト　（責任者：理事　井口信雄 榊原記念病院附属クリニック院長）

【事業報告】

これまでこのプロジェクトでは全ての医療専門職を対象に国内および海外を含む研修や教育を通して人材育成と専門技能の向上に努めてきた。

国内および海外の医療機関と提携する独自の海外研修プロジェクトは、看護師、薬剤師、臨床放射線技師などの臨床業務や研究に活かすことができ、本邦の専門職教育の推進に多大な貢献が期待される。

これまで累計24名が参加し、各分野で習得した成果をまとめた報告書が提出された。今年度も看護部を中

心に国内での研修、研究活動はなされていたが、このプロジェクトへの協賛および寄付などを得ることはできず、このプロジェクトを十分に進めることができなかった。このプロジェクト事業は2025年度をもっていったん終了とするが、専門領域における研究や診療レベルの向上は必須であり、より魅力的な新たなプロジェクトを検討したい。

⑵ 包括的心臓リハビリテーション研究会 （責任者：中山敦子 榊原記念病院循環器内科部長）

【事業報告】

①急性期治療中の心不全患者に対する心臓リハビリの安全性および効果に関する研究、②心臓血管外科術後患者に対する心臓リハビリの安全性および効果に関する研究、③遠隔心臓リハビリの安全性および効果に関する研究、④フレイルを呈する高齢心疾患患者に対する運動療法、⑤慢性腎臓病を合併する高齢フレイル心疾患患者の骨格筋や身体機能に対する運動療法、⑥ SGLT2阻害薬が糖尿病性心臓自律神経障害へ及ぼす影響に関する後ろ向き観察研究、⑦心血管疾患における QOL スコアの開発。

⑶ 高度先進心臓血管研究プロジェクト （責任者：山崎健二 北海道循環器病院顧問・先進医療研究所所長）

【事業報告】

植込み型補助人工心臓 EVAHEART の生体適合性向上の研究活動を継続的に実施する。①血栓形成と飛散を抑制する送脱血管及び人工血管に関する研究開発、②感染経路であるドライブラインとその皮膚貫通部における感染防止の研究開発、③ 血液侵入を抑えるシール機能と安定駆動する回転翼支持機構の研究開発、を進めた。これらの研究を、北海道循環器病院先進医療研究所を核として、早稲田大学、東北大学、国立循環器病研究センター、サンメディカル技術研究所・ＥＶＩが連携して推進した。

海外展開に関しては、

①中国ではブリッジ使用ならびに DT（永久使用）に追加して小型 EVAHEART ２及びチップレスカニューラの薬事承認を得、中国51施設で植込みトレーニングを施行し、計400例の植込みを実施した。2年生存率90％と良好な成績を得た。中国各地の植込み実施施設の拡大・トレーニングを行いさらなる成績向上を図った。

②米国での HeartMate III との多施設無作為比較試験（RCT）COMPETENCE Trial では、心尖部直付け型への変更要望が多く挙げられたため、治験を一時中断し一部変更を実施した。脱血管を廃し、心尖部直付型の EVAHEART 3.0 を開発した。

③インドでの治験準備を開始した。チェンナイ2施設にて講演会を行い計130名を超える参加者を得た。チップレスカニュラ、PSM 機構等への関心も高く、治験参加への高い意欲が感じられた。2026年4月には臨床研究が開始される予定である。

他に、虚血性心疾患、心筋炎、弁膜症、大動脈瘤、心臓リハビリテーション関連の臨床研究を行った。

⑷ 心血管病研究プロジェクト （責任者：理事・研究委員 萩原誠久）

【事業報告】

心血管病研究プロジェクトでは、本年度も心血管疾患に関する臨床研究を推進し、学会発表および研究論文の公表を行った。不整脈疾患や冠動脈疾患に関するこれまでの研究成果は、日本人を対象としたエビデンスとして重要なデータとなっている。また、本プロジェクトが主催・参画した HIJ-PROPER 試験、AFIRE 試験 に加え、新たに STABLED 試験 においても重要な研究結果を報告した。

⑸ 榊原・今野カテーテル生検法レジストリー （代 表：西川俊郎 元東京女子医科大学病理診断科教授
事務局：吉澤佐恵子 東京女子医科大学病理診断科講師）

【事業報告】

カテーテル心筋生検法は、心筋疾患の診断や病態把握、心臓移植後の拒絶反応評価に有用な手法であり、

レジストリーおよび登録データベースを活用した病理学的検討は重要である。心アミロイドーシスの検討では、心筋生検組織の病理学的・免疫組織学的解析を継続した。疾患修飾薬の処方要件変更に伴い心筋生検の役割は変化しつつあるが、ダブルアミロイドーシスやシンチグラフィー偽陽性例においては、組織診断の重要性が示唆された。拡張型心筋症（DCM）の検討では、心臓移植例を対象に左室補助人工心臓（LVAD）植え込み前後の心筋組織の比較解析を進め、症例の蓄積とともに心筋リモデリングの多様性が示されつつある。COVID-19感染およびワクチン接種後心筋炎については、症例数は減少傾向にあるものの、蓄積症例の解析を継続している。さらに、慢性活動性心筋炎症例の検討において、心筋生検と MRI の対比により、線維化の進行は概ね一致する一方、生検では MRI で検出困難であった遷延性炎症が確認された。病態把握および治療方針決定には、両者併用の有用性が示された。本成果は学会にて報告し、YIA を受賞した。

⑹ Heart & Vessels 刊行基金 （責任者／編集長：理事・研究委員　萩原誠久）

【事業報告】

Heart and Vessels 誌は、心臓と血管に関する臨床と基礎研究論文を掲載する英文雑誌として1985年に創刊した。創刊当初は季刊発行であったが、1994年から2015年までは隔月刊行、2016年1月からは毎月刊行している。当財団では1985年創刊当初より、編集会議、発刊・編集の支援および事務室の提供を行ってきたが、2025年からは雑誌の発行を財団が主管している。

⑺ 心臓外科手術の安全性向上に関する研究会 （代表者：國原孝　東京慈恵会医科大学心臓外科主任教授）

【事業報告】

心臓手術における成績の向上を目指して、基礎研究、臨床研究、新しい手術手技の開発と導入を支援することを目的に活動を行った。具体的には器材の購入、研究消耗品の購入、さまざまな研究費支援、国内外の外科医の招聘などの費用面での支援を行った。各領域に置いてまずまずの成果を残すことができたが、とりわけ「慈恵心臓外科データベース（Jikei Cardiac Surgery Database: JCSD）の構築」、「重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する乳頭筋に介入した僧帽弁形成術の有用性に関する多施設共同研究（MITRAPLUS Study）」、「早稲田大学 TWIns と共同で大動脈弁形成術の成績向上に向けた拍動流実験」、「本邦における急性 A 型解離の外科治療におけるオープンステントグラフトの役割に関する JCVSD を用いた研究」に関して一定の成果を残すことができた。

⑻ 日本心臓血管治療システム研究会

（代　表：遠藤真弘　東京女子医科大学名誉教授
事務局：冨澤康子　公益財団法人賀川事業団雲柱社理事、東京大学客員研究員）

【事業報告】

日本では外科医の減少を食い止める方策が求められてきた。外科医の減少を防ぐために、外科が魅力的になり、ワーク・ライフ・バランス（WLB）が改善され、働きやすい環境を整え効果的な対策を立てなくてはならない。また、医師を含む女性労働者が働きやすく、妊娠･出産･子育てを行えなくてはならない。また、医学領域以外では、労働者の権利、女性労働者のキャリア形成、メンタルヘルス対策、保育の安全、高齢者福祉、対話型 AI の活用などについても注目し、勉強会を開催した。近年、老後破産が話題になっているため、勉強会に高齢者福祉に老後破産を防ぐ講師を加えた。

⑼ 分子遺伝子学に基づいた先天性遺伝性心疾患の成因解明・診断・治療・予防研究プロジェクト

（代　表：中西敏雄　元東京女子医科大学循環器小児科教授）

【事業報告】

臨床研究では、不整脈、先天性 QT 延長症候群、肥大型心筋症、拡張型心筋症等の疾患遺伝子の検索および機能解析を行い、原発性肺高血圧症や心中隔欠損症等における新規疾患遺伝子の同定を進めた。また、心

臓病家系患者由来の不死化Ｂ細胞株の樹立・蓄積を継続し、循環器遺伝疾患バイオバンクとしての基盤整備を推進した。さらに、不死化Ｂ細胞株を用いた疾患特異的 iPS 細胞の作製と心筋分化誘導を行い、遺伝子変異による機能変化の評価を進めた。特に、コネキシン45変異において伝導速度低下を認め、疾患病態の再現が示唆された。

⑽　循環器系発達に関する研究プロジェクト

（責任者：山岸敬幸　東京都立小児総合医療センター院長、慶應義塾大学医学部小児科客員教授）

【事業報告】

総動脈幹症（22q11.2欠失症候群）モデルマウスの妊娠母体への葉酸投与が、Notch および Midkine シグナルの活性化を介して、胎仔の神経堤細胞の異常分化・遊走を抑制し、総動脈幹症の表現型が軽症化することを解明した。さらに、次世代シーケンサーによる遺伝子解析と遺伝子改変マウスの解析により、TMEM260変異が日本人総動脈幹症の主要因であること、また NOTCH1/FLT4複合変異が流出路異常の重症化に関与することを示した。これらの成果は、先天性心疾患の発症機構の解明と、予防法や遺伝カウンセリングの発展に資する基礎的知見である。今年度も日本心臓血管発生研究会のサポートにより最先端の研究成果の発信を推進し、我が国の本研究領域の発展・次世代育成に貢献した。

⑾　発達血管学研究基金　（代　表：中西敏雄　元東京女子医科大学循環器小児科教授）

【事業報告】

周産期の動脈管の収縮・拡張の機構を調べることは、胎児循環生理の重要な課題である。昨年に引き続き、動脈管の収縮機序についての研究を実施した。血管の収弛緩に関係の深い、細胞内のカルシウム貯蔵器官である筋小胞体、ミトコンドリア、細胞膜のカルシウムチャネルの発現量をリアルタイム PCR 法により測定した。筋小胞体の膜にあるイノシトール三リン酸受容体は、3種類あるが動脈管では３種類とも主肺動脈や大動脈に比べて高い発現を示した。Ｌ型カルシウムチャネル（Cav1.2）は、主肺動脈や大動脈に比べて動脈管でおよそ3倍高い発現量を示した。この結果から、酸素濃度変化などのシグナルによって動脈管が他の血管より敏感に収縮を制御される可能性が示された。

⑿　ウェーヴ・インテンシティー研究プロジェクト

「定期的な軽度の運動の継続による動脈硬化指標の改善ー超音波法による評価」（代　表：評議員　菅原基晃）

【事業報告】

１）週5回の体操効果の検証を、WI（ウエーヴ・インテンシティ）システムを用いることで、心血管系干渉状態の視点から評価を行った。体操実施群と非実施群を比較すると、実施群でのみ心収縮性指標 W1、心拡張性指標 W2、血管弾性指標 β、脈圧は低下した。心拡張性指標 W2が低下したのは、拡張性が悪くなっているのではなく、血管弾性が向上したことで、ウィンドケッセル機能が向上し、血流は緩徐となり、心負荷が下がり拡張性に必要なエネルギーが減少したのは1要因と考えられた。その他1回拍出量 FV にも有意な変化が生じた。更に、高血圧群と正常血圧群で比較すると、2群とも W1、W2、βいずれも低下もしくは低下傾向にあった。Norm は β の低下が大きく、HT は収縮期血圧が大きく低下した。

２）起立テスト時の血圧変動に伴う総頚動脈エコー諸指標の変化を WI システムを用いて観た。

⒀　KAATSU プロジェクト

「Hybrid assisted limb（HAL）と加圧筋力トレーニングを併用した脊柱変形患者（心臓･循環器疾患合併も含む）へのリハビリテーション（第三報）」（代　表：加藤義治　元東京女子医科大学教授・講座主任）

【事業報告】

Hybrid assisted limb（HAL）と加圧筋力トレーニングを併用したリハビリテーションを各種神経疾患お

よび腰椎変性疾患による脊柱変形患者（心臓・循環器疾患の合併も含む）に行った。対象は７名で、麻痺あり3名、麻痺なし4名で、年齢は68歳～ 75歳（平均70.2歳）であった。脊柱変形は後弯（L1-L5角）の角度が5度～ 24度（平均8.7°）、側弯の角度（Cobb 角）で0度～ 22度（平均18.6度）であった。結果は、腰痛の平均VAS が5.8⇒3.4、Timed Up and Go が平均16.6秒～ 14.2秒と軽度改善したが、性差、麻痺のある･なし、後弯･側弯の角度で有意差は認められなかった。今回は症例が少なく、麻痺例と麻痺なし例を一緒に検討したことが有意差が出なかった原因で、今後はそれぞれを検討する予定である。

⑭　臨床心疾患超音波研究会　（代表世話人：泉佑樹　榊原記念病院循環器内科医長）

【事業報告】

高齢社会で弁膜症をはじめとした構造的心疾患を有する心不全患者が増加しており、これに対する外科手術およびカテーテルインターベンションの重要性が増している。当院を含む多施設共同研究であるカテーテル治療レジストリーの OCEAN-mitral からは、経カテーテル僧帽弁接合不全修復術後の残存逆流だけでなく僧帽弁圧較差も予後に影響すること（PMID: 41193089）などを報告した。また、当院と東京大学との共同研究からは、肥大方心筋症におけるサルコメア遺伝子変異陽性を従来の予測方法に心電図所見を加えることで予測精度が高まったこと、またサルコメア遺伝子変異陽性は予後不良に関連すること（PMID: 41676922）などを報告した。

⑮　高次脳機能研究　（代　表：理事 高橋幸宏　事務局幹事：稲毛章郎　榊原記念病院小児循環器科）

【事業報告】

本研究の目的は、心臓手術後の高次脳機能と精神運動発達障害に影響を及ぼす要因を明らかにした上で対策を講じ、精神運動発達障害を有する患者さんの発達支援を行う新たなシステムを構築すること、また手術後遠隔期において高次脳機能に影響を及ぼす周術期での要因を明らかにし、神経学的後遺症のない手術および周術期管理を実行することです。

昨年度までと同様に、先天性心疾患のために当院で手術を行った幼児および児童を対象として新版 K 式発達検査やウェクスラー式知能検査（Wechsler intelligence scale for children, WISC）を施行し、評定が低く発達異常が見込まれる児に対して、早期から心理カウンセリングなどのサポートを行いました。また、4D-flow MRI を用いた脳循環関連血流評価を継続し、周術期因子と発達異常との関連について検討を進めました。

⑯　先進的心臓血管外科治療プロジェクト　（代　表：理事　高梨秀一郎）

【事業報告】

国内外の学会や研究会を現地参加や web にて、企画・出席し、活発に発表を行なった。

心臓血管手術の研究開発・実験・検証から臨床適用を円滑に進めるため、現状の調査研究や研究者の学術的交流を有機的に実施した。若手専門医育成を目的として、エキスパートの先生を招聘して、講演会や技術指導など教育的活動を行なった。また、心拍動下冠動脈バイパス手術訓練装置を用いて、基礎手技の反復練習や、自身の訓練効果の確認を目的とした手術スキルの定量評価を引き続き行なっている。今後も引き続き若手専門医育成に取り組んでいく予定である。

⑰　慢性腎臓病と心血管疾患研究プロジェクト　（責任者：新田孝作　東京女子医科大学名誉教授）

【事業報告】

今年度も研究目標として、常染色体性多発性嚢胞腎（ADPKD）患者における血清リン値と腎予後の関係を調査しています。 ADPKD においては骨ミネラル代謝異常（MBD）に関する報告は少ないのが現状です。ADPKD では70歳までに約50% が透析療法が必要になります。その過程で、高血圧が危険因子として幅広く研究されており、降圧薬の選択が重要なテーマになっています。リン低下薬を服用していない235例の

ADPKD 患者を対象とし、推算糸球体濾過値（eGFR）50% 低下を腎予後の指標としました。結果、血清リン値が4.0 mg/dl を超えると腎予後が悪くなりました。

⑱ 循環器領域の心身医学および行動医学に関する研究プロジェクト （代　表：評議員　笠貫宏）

【事業報告】

循環器疾患における認知行動療法は極めて重要である。昨年、高血圧治療補助アプリがプログラム医療機器（SaMD）として保険適用となった。

本年度は、医学・看護学・工学などの領域を横断する基盤となるべく、「日本ヘルスケアイノベーション学会」設立に向けた支援を行った。同学会は、医療･ヘルスケア分野におけるイノベーションを「医学」「産業」「政策」「社会実装」の観点から横断的に捉え、次世代の医療の在り方を議論･発信することを目的としている。そして、第1回日本ヘルスケアイノベーション学会 学術大会（3月15日、一橋講堂会議室）にて、基調講演「レギュラトリーサイエンスの視座から、日本ヘルスケアイノベーション学会への期待」を行った。

⑲ 国民のための医療システム構築に関する研究プロジェクト （代　表：評議員　笠貫宏）

【事業報告】

本研究プロジェクトでは、2021年より、「電子カルテ改革による医療 DX」の推進を支援してきた。

本年度は、内閣府「第３期健康・医療戦略」の閣議決定を受け、日本の創薬力・臨床研究力向上のため、ICH ＧＣＰリノベーション導入と治験・臨床研究制度の抜本的見直しに関する論文（医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス VOL.56, NO.2）発表と、シンポジウム（レギュラトリーサイエンス学会第15回学術大会、9月6日、一橋講堂）を企画・実行した。

また、これまでの医療 DX、薬事行政などへの医療改革への原稿をまとめ、論文化への準備を行った。

⑳ 末梢臓器血流に関する研究プロジェクト （責任者：進藤廣成　大月市立中央病院顧問）

(Ⅰ) 腰椎疾患による下肢麻痺に対し単関節 HAL を使用したリハビリテーションの試み（第一報）

（主任研究員：加藤義治　元東京女子医科大学教授・講座主任）

【事業報告】

腰椎疾患による下肢麻痺例に対し単関節 HAL（Hybrid Assisted Limb）を利用したリハビリテーション（以下 HAL リハ）を試みた。対象は腰椎疾患による L5あるいは S1神経麻痺患者５名で、男性4名、女性１名で年齢は34歳～ 52歳（平均40.6歳）である。方法は、歩行障害のある患者に麻痺筋と拮抗筋の両筋に電極を付け、麻痺筋はアシスト、拮抗筋は通常の収縮により筋力強化を行った。本リハビリを3 ～ 6ケ月施行し、リハビリ前後での麻痺筋の徒手筋力テスト（MMT）、スムーズな収縮の感覚（VAS）、TUG（Timed Up and Go）を評価した。結果は、MMT では変化なし、VAS は5.2⇒4.6、TUG は平均14.6秒～ 12.8秒であり、本リハビリの前後で有意差は出なかった。今後は症例を増やし、リハビリ期間を延長し、検討する予定である。

(Ⅱ) 慢性腎臓病重症化予防における食事療法と運動療法の併用に関する検討

（主任研究員：新田孝作　東京女子医科大学名誉教授）

【事業報告】

今年度の研究は、血液透析患者におけるエボラルセトの安全性と有効性について検討しました。血液透析患者においては、二次性副甲状腺機能亢進症に伴う血清リンとカルシウムの制御が大切です。心血管疾患の合併が増加するからです。赤血球造血刺激因子（ESA）抵抗性を有する維持血液透析患者における貧血治療に焦点をあてて検討しました。今までは、食事中のリン制限、透析効率の向上およびリン吸着薬での治療が一般的でした。最近、シナカルセトの改良型であるエボカルセトが開発され、リン・カルシウム代謝への影響が向上すると考えられます。血液透析患者にエボカルセトを投与して、2年間の前向き試験を行い、その安全性と有効性が確認されました。

㈢ 脈絡膜における形態および血流変化の検討

（主任研究員：飯田知弘　上尾中央総合病院特任副院長・アイセンター長、東京女子医科大学客員教授）

【事業報告】

1. 数理モデルによる網膜・脈絡膜循環シミュレーション

OCT angiography を用いた網膜血管、特に中心窩無血管野（FAZ）の構造に関する研究を継続した。臨床での結果を基に、数理モデルにより FAZ 形成過程、網膜血管発生のモデル作成を進め、様々な条件を追加することにより精度を増して、世界ではじめてヒト網膜血管走行によく類似したモデル作成に成功した。それを元に未熟児網膜症のモデル開発も進めている。また並行して、中心窩陥凹形成過程のシミュレーションも精度を増したモデル作成を継続している。

2. 黄斑疾患の治療前後における網脈絡膜の形態と血流変化の検討

新生血管型加齢黄斑変性に対する faricimab、afribercept 8mg による治療前後における網脈絡膜の形態と血流変化を新規症例及び、従来薬からの変更例においても評価検討した。

これらの研究成果は、各種学会や講演で発表し、また英文論文として公表してきている。

㉑ 肥大型心筋症臨床医学研究プロジェクト　（責任者：高山守正　榊原記念病院顧問）

【事業報告】

肥大型心筋症センターの臨床研究を支える活動であり、難治性心不全を来す重症肥大型心筋症への新しい治療の確立を本プロジェクトの目的としてきた。薬剤抵抗性の閉塞性肥大型心筋症（HOCM）に対する経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）は前責任者である高山顧問が国内導入を図り安全確実な治療法を確立してきた。一方、外科的中隔心筋切除術（Myectomy）は、高梨特任副院長が内科・外科共同の構想をメス先に表現しモロー手術を大きく超える拡大中隔心筋切除術として完成させた。2025年にも順調に実施され、PTSMA は35例、Myectomy は35例、ICD 植え込みは15例に実施された。2025年6月から本邦で導入可能となったミオシン阻害薬は13例に導入された。いずれも国内屈指の症例数であった。治療法の教育活動の一環として、他院での Myectomy、PTSMA の技術指導も行った。研究面では、北村循環器内科医長が中心となり HCM レジストリーの構築が進み、総計3200例を超え登録データを元に臨床研究を推進し、学会発表や論文作成も行った。患者・家族教育として2004年から開始された「肥大型心筋症の患者・家族向けセミナー」は、2005年度には2回行い、あわせて計6回の開催となった。各回ともに100名以上の患者・家族が参加された。一生に亘る長年の生活・生き方への情報供給とした。

㉒ 血管疾患臨床医学研究プロジェクト　（代　表：新本春夫　榊原記念病院血管外科主任部長）

【事業報告】

1．臨床研究

Ⅰ．動脈瘤の臨床研究

1）腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療（EVAR）の際，内腸骨動脈瘤（IIAA）を合併している場合には IIAA 内への血流を遮断し、血栓化させるが瘤壁は切除しない。IIAA 塞栓が与える影響を検討した。IIAA 塞栓に起因する虚血症状としては殿筋跛行が高頻度に発生した。IIAA を合併していても、継続的な観察と適切な再介入を施行すれば瘤関連での死亡は回避できたが、治療後の IIAA の拡大に有意な影響を与えるエンドリークの描出に際しては CT での評価には限界があった。

2）多施設臨床研究として「破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究」に参加し、2025年12月31日までに150例を登録した。

Ⅱ．閉塞性動脈硬化症の臨床研究

多施設共同研究として「浅大腿動脈血管内治療デバイスの前向き比較観察研究【Toma-Code FP study】に参加している。

当院の登録症例の予後追跡調査は終了し、現在、主任研究施設においてデータの解析を待っている状況である。

Ⅲ．伏在型下肢静脈瘤の臨床研究

「血管外科外来における疾患・治療説明効率化による患者満足度と診療時間変化の検証」と題して、下肢静脈瘤の外来における患者満足度向上と職員の業務負担軽減を図ることを目指す研究を開始した。現在症例の蓄積中である。

２．教育的活動

各医師が別途リスト記載の論文発表や各種関連学会などが主宰する学術総会に参加し、発表や討論を行った。

⑵3　先天性心疾患肺高血圧研究基金　（代　表：中西敏雄　元東京女子医科大学循環器小児科教授）

【事業報告】

単心室血行動態疾患ではフォンタン手術が施行される。フォンタン手術後には平均肺動脈圧が15 mmHgを越える肺高血圧となることがある。本研究では肺動脈圧の高値は、不整脈や心不全、肝硬変などをきたし、予後不良の原因となることを明らかにした。肝硬変の発症は、フォンタン術後１０年くらいから増加し、フォンタン術後２０年で１０％、フォンタン術後３０年で２０％の患者に認められた。肝がんの発症は、フォンタン術後１０年くらいから認められはじめ、フォンタン術後２０年で１．４％の患者に認められた。さらなる長期予後のデータ蓄積が重要である。

⑵4　重症心不全の再生治療プロジェクト　（代　表：研究所・研修所所長 研究委員　細田徹）

【事業報告】

c-kit 陽性心臓幹細胞を用いる JOKER 試験は、重症心不全で冠動脈バイパス手術を受ける患者を対象とした。術中に右心耳を部分切除して凍結し、術後の左心室駆出率が40% 以下の場合、セルバンク社で c-kit 陽性幹細胞を培養し、品質条件を満たした幹細胞100万個を榊原記念病院で経カテーテル的にバイパス血管内へ移植する。

2017年より被験者登録し、2018年に第1、2019年に第2例目の幹細胞移植を遂行した。バイパス手術のみの対照群と比較して心機能の改善傾向が認められている。日本医療研究開発機構の再生医療実用化研究事業に応募したが、国内に特許がない等の理由で採択されず、追加予算獲得の見通しが立っていない。

⑵5　救急蘇生科学研究プロジェクト

（代　表：坂本哲也　公立昭和病院院長、一般社団法人日本蘇生協議会代表理事）

【事業報告】

本研究プロジェクトはわが国における救急蘇生科学の学際的研究を目的とし、一般社団法人日本蘇生協議会（JRC）で実践してきた。本年度は、第38回日本小児救急医学会学術集会・第32回小児集中治療ワークショップとの共催で、第17回日本蘇生科学シンポジウム（J-ReSS）の開催を支援し、救急蘇生科学の教育・啓発、普及の推進に関して、若手研究者の研究発表や論文による国際展開を促し、今後の研究の進展に寄与した。また、日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本循環器学会等、計25の参画学会・団体と救急蘇生科学研究に関する最新情報を共有し、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）やアジア蘇生協議会との連携・協力を推進した。

⑵6　心血管救急医療推進会議　（代　表：高山守正　榊原記念病院顧問）

【事業報告】

東京都の効率的な心大血管救急は都保健医療局の管理下に、東京都 CCU 連絡協議会（東京都 CCU ネットワーク・急性大動脈スーパーネットワーク）が東京都医師会を通して委託され、東京消防庁と一次・二次医療機関および都民直接の救急要請が高度循環器救急施設と介在機関な迅速な連携を意図して構築されている。

緊急に発生する心血管救急に対し、救急患者の医療機関への緊急収容と優れた診療の実績をCCU緊急収容患者の登録データの解析により検証し、課題を検出し修正・組織改編をしてきた。当財団プロジェクト「心血管救急医療推進会議」は、東京都CCU連絡協議会の中心施設である当院がその活動を支える組織であり、都内76施設（2026年）が都保健医療局・東京消防庁・都医師会との協力体制を運営する連絡協議会事務局と密接に連携し、救急患者登録データ集計解析部門（学術委員会）の運営や、毎年開催される年次学術集会の準備運営や施設の教育活動などの支援を以前より行って来た。2025年は円滑な各救急施設の運営の結果、前年集計が全施設から緊急心血管疾患18,642例を数え、年次の疾患別解析を進めている。同時に働き方改革の普及による参画施設の課題抽出は報告・提言する役目であり取り組んでいる。

⑵7　先端的心不全診療のための心臓血管カテーテル治療・デバイス治療・画像診断開発プロジェクト

（代　表：専務理事・研究委員　磯部光章　榊原記念病院院長）

【事業報告】

心不全・大型血管炎・その他

心不全領域での予防・啓発・罹患後の生活向上、市民・患者への啓発活動、医療者への教育活動、研究活動を行ってきた。 2025年4月には東京都の委託事業として脳卒中・心臓病等総合支援センターの指定を受け、引き続き患者相談窓口、両立支援、市民啓発（料理教室、運動教室、お薬教室、市民公開講座、成人先天性心疾患ピアサロン）の開催、親子心臓教室などを行った。弁膜症のカテーテル治療として三尖弁への治療介入を全国に先駆けて実施し、今後症例を積み重ねていく。カテーテル治療に関して全国への出張での技術指導、全国からの研修員の受付を行い、技術の普及に努めた。高安動脈炎に関してトシリズマグを主体とした新規治療プロトコールを9例に実施し、うろ向きの解析を行い、論文投稿中である。本年度も地域の介護・福祉施設職員、あるいは両立支援コーディネータ等を対象として研修会、講演会を行い、また多職種就業者のネットワークを構築した。

虚血および構造的心疾患部門

心血管救急の拠点施設として年間365日の受け入れ態勢を堅持し、2025年は急性心筋梗塞237件、急性大動脈症227件を受け入れた。急性冠症候群に対するOCTを用いた研究により、発症から1年間と1年以降2年までの間では心筋梗塞の発症機序（プラーク破裂、びらん、石灰化結節）により予後が異なることを明らかにした。致死的合併症となるPCI時のバルーン収縮困難な症例の対応として小切開開心術によるバルーン回収を論文として報告した。当院が事務局となっている経皮的大動脈弁置換術登録研究から透析症例の治療後の予後、周術期脳梗塞の合併率とその予測因子が末梢動脈疾患とSTSスコアおよび自己拡張弁であること、経カテーテル的大動脈弁置換術施行前の利尿剤投与は術後の全死亡および心血管死亡の独立した因子であること、術前の心エコーをスコア化することにより術後の予後を予測できることを報告した。

不整脈部門

2025年の年間カテーテルアブレーション症例数は1207例でスタッフの原因により2024年よりもわずかに減少となったが、2024年に続き、本邦で最多となった。他院で不成功に終わった難治性心房細動に対する治療も増加している。植込みデバイス症例数は、ペースメーカ413例、植込み型除細動器（ICD）・心臓再同期療法（CRT）105例、植込み型心電計（ICM）32例の計550例であった。経静脈的リード抜去術は25例で他院からの紹介が多い。

豊富な症例数があり、医師のみならず臨床工学技士や看護師も臨床研究を行ない、数多くの学会発表や論文発表を行った。

画像診断

画像診断は構造的心疾患の治療ガイドとして極めて有用であり、肥大型心筋症の構造異常や治療による僧帽弁輪の変化を心エコーで詳細に検討して発表した（J Am Soc Echocardiogr.）また急性大動脈解離の診断において非造影のCTを用いて診断する方法を検討し（Radiol Cardiothorac Imaging)、また他施設共同研究によるAIを用いたCTによるプラーク評価がなされた（Eur Radiol.）さらに核医学半導体検出器で心筋

血流の定量評価を試みた（J Cardiol. Jan）。また近年 ATTR アミロイドーシス診断における核医学診断の精度管理のための WG に参加し報告された（Ann Nucl Cardiol.）

㉘ 低侵襲心臓手術のための社会啓発・画像診断・デバイス開発プロジェクト

（代　表：下川智樹　帝京大学医学部付属病院心臓血管外科主任教授）

【事業報告】

本プロジェクトは、心臓血管外科の低侵襲治療を中心に、画像診断・デバイス開発・専門医育成・社会啓発を統合的に推進することを目的として発足した。今年度は、以下の重点研究テーマに沿って実績を積み重ねた。

・僧帽弁形成術後再発に関する遠隔期予測因子の解析

・低侵襲心臓手術に関する実施体制と教育プログラムの整備

加えて、学会発表・研修会・患者向け広報活動なども展開し、社会実装に向けた基盤づくりを推進した。

来年度は、AI 診断支援や遠隔教育の導入、患者参加型の意思決定支援ツール開発にも取り組む予定である。

㉙ 次世代心臓血管治療イノベーションプロジェクト

（代　表：岩倉具宏　榊原記念病院心臓血管外科主任部長）

【事業報告】

2025年度、完全3D 内視鏡 MICS を駆使し、大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・心房中隔欠損・心房細動等へ低侵襲治療を展開した。僧帽弁形成は35年で累計2,900例となり、冠動脈手術では QFR や MICS-CABG を活用し良好成績を得た。急性大動脈解離（Stanford A）は年間約100件施行し、安全性向上を達成した。全領域で個別適応を重視し、早期社会復帰と QOL 改善を実現するとともに、国際学会発表（EACTS, AHA, STS）も推進した。

㉚ 先天性心疾患 HeartBridge プロジェクト～胎児から成人までの橋渡しと、最先端診断・治療の架け橋～

（代　表：松井彦郎　榊原記念病院副院長・小児周産期診療部長・小児循環器内科主任部長）

【事業報告】

HeartBridge プロジェクトは、先天性心疾患（CHD）を胎児期から成人期まで継続的に支える「橋渡し」医療の実現を理念として、2025年度より本格始動した。東日本最多の CHD 診療実績を基盤に、胎児心エコー・心臓 MRI・三次元画像技術の高度化、年齢・病態に応じた専門診療体制の整備、カテーテル・手術治療成績の向上、多職種連携による QOL 支援を推進した。医療者教育では高度技能研修プログラムにより全国の専門医育成に貢献し、社会貢献活動では ACHD への移行教育プログラム（ピアサロン）の実施と医療機関連携ネットワークの拡充を図った。本プロジェクトは今後も、患者の人生各フェーズをつなぐ「架け橋」として全国へその理念と実践を発信し続ける。

３．国内学会への協力

Ⓐ 第45回東京ＣＣＵ研究会

（会長：小宮山伸之　所属：聖路加国際病院循環器内科 特別顧問、聖路加メディローカス所長）

1）会　期：2025年12月13日（土）

2）会　場：学校法人聖路加国際大学　大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター　日野原ホール

3）主　催：東京都ＣＣＵ連絡協議会、（公財）榊原記念財団

4）後　援：東京消防庁、東京都医師会

5）協　力：東京都保健医療局

４．附属臨床研究施設

⑷　榊原記念病院（院長：専務理事・研究委員　磯部光章）

一、安全・ア・良質な医療サービスの提供　【2025年度の情報】

施設指定等

□東京都地域医療支援病院
□東京都災害拠点連携病院
□東京都指定二次救急医療機関
□東京都難病診療分野別拠点病院［循環器疾患］
□東京都周産期連携病院（休日・全夜間診療事業（産科）医療機関）
□東京都多摩新生児連携病院
□東京都無痛分娩費用助成事業対象医療機関
□感染症法第一種協定指定医療機関
□看護師の特定行為に係る厚生労働省指定研修機関

東京都委託事業等

□東京都心臓病等総合支援センター事業 実施病院
□東京都心不全サポート事業 実施病院

主な評価・表彰

□病院機能評価認定（日本病院機能評価機構）
□患者満足度調査（日本病院機能評価機構）
□国際病院ランキング（Newsweek 誌）

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【病院機能評価受審　認定】

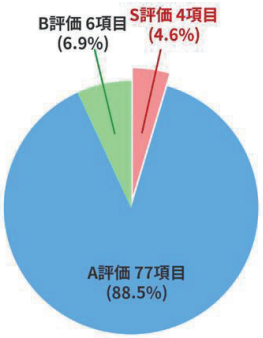
日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、認定された。

第1領域；患者中心の医療の推進	患者の視点に立った良質な医療を実践するうえで求められる病院組織の基本的な姿勢について。また、患者の安全確保や医療関連感染制御などに向けた病院組織の検討内容、意思決定について評価する。
第2領域；良質な医療の実践1	病院組織として決定された事項が、診療・ケアにおいて確実かつ安全に実施されていることを評価する。
第3領域；良質な医療の実践2	確実で安全な診療・ケアを実践するうえで求められる機能が、各部門において発揮されていることを評価する。
第4領域；理念達成に向けた組織運営	良質な医療を実践するうえで基盤となる病院組織の運営・管理状況について評価する。


認　定　証
Certificate of Accreditation
認定第JC2718号
Accreditation Number
主たる機能：一般病院2
Hospital Type 2
機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0
公益財団法人榊原記念財団附属
榊原記念病院
Sakakibara heart Institute
殿
貴病院が日本医療機能評価機構の定める
認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JQ accreditation standards.
認定期間：2025年10月3日～2030年10月2日
公益財団法人　日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care
代表理事　理事長　河北　博文
Chairman of the Board　Hirobumi Kawakita



日本医療機能評価機構
認定第 JC2718 号



受審結果：
S 評価 4 項目（4.6%）
　1.2.3　地域への教育・啓発
　1.6.2　療養環境整備
　3.2.6　救急医療機能
　4.2.4　職員にとっての職場管理
A 評価　77 項目（88.5%）

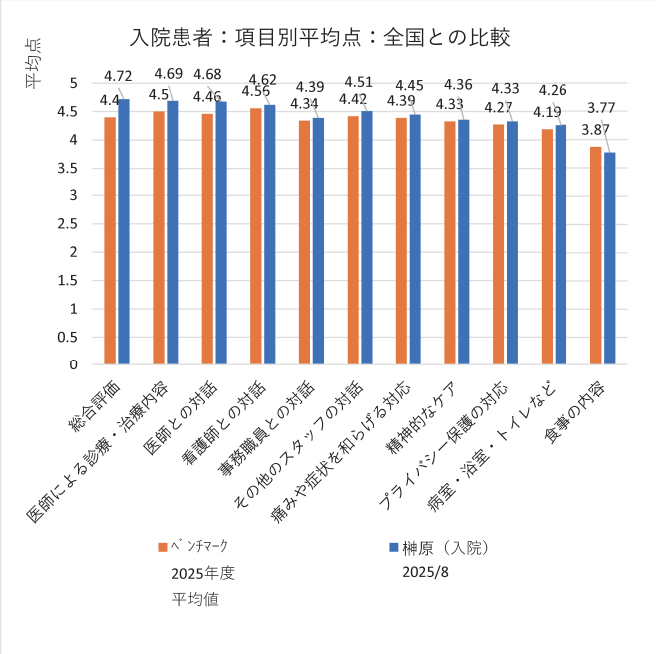
評価：定義・考え方
S：秀でている
A：適切に行われている
B：一定の水準に達している
C：一定の水準に達しているとはいえない

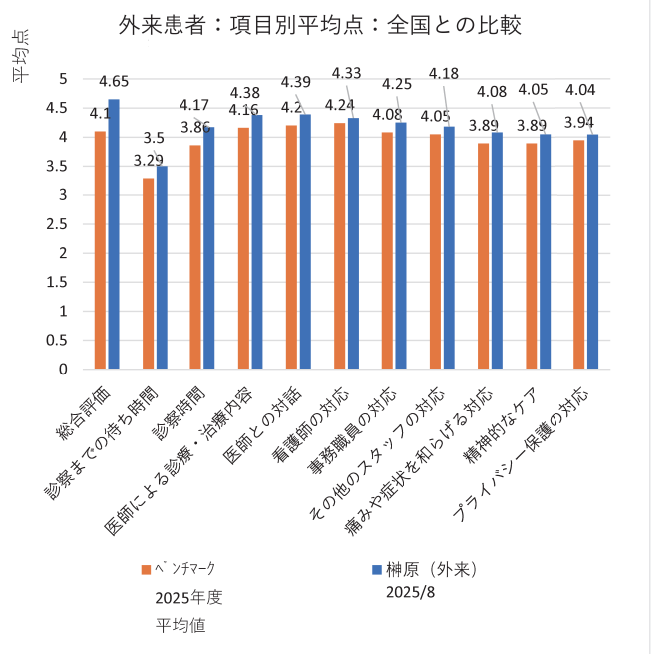
一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【患者満足度調査：ベンチマーク比較】

2025年8月に公益財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価事業の「患者満足度調査」を実施し最終報告が出た。

入院及び外来患者の調査を通じて、食事の内容以外の項目においては全国の平均値を上回る結果であった。

満足度調査に参加した病院（入院部門258施設、外来部門248施設）の中で、総合評価「親しい方にも当院をすすめようと思いますか」の項目において、入院患者調査部門で9位、外来患者調査部門で3位であった。



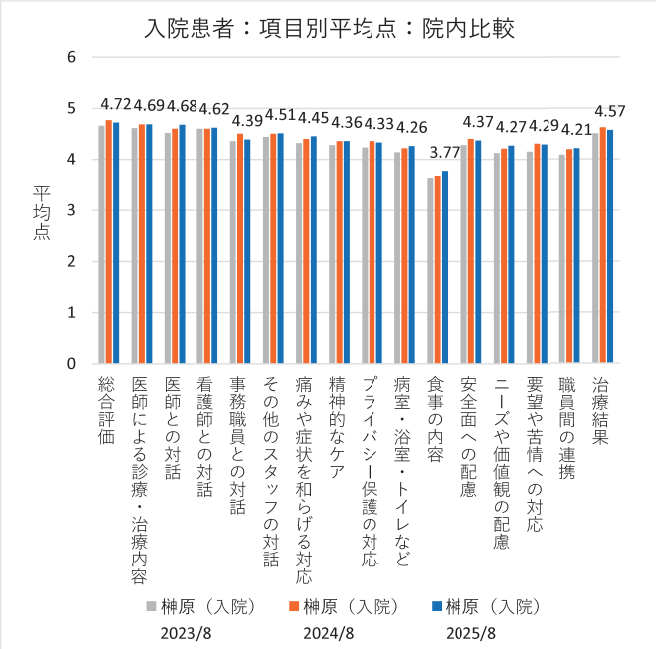


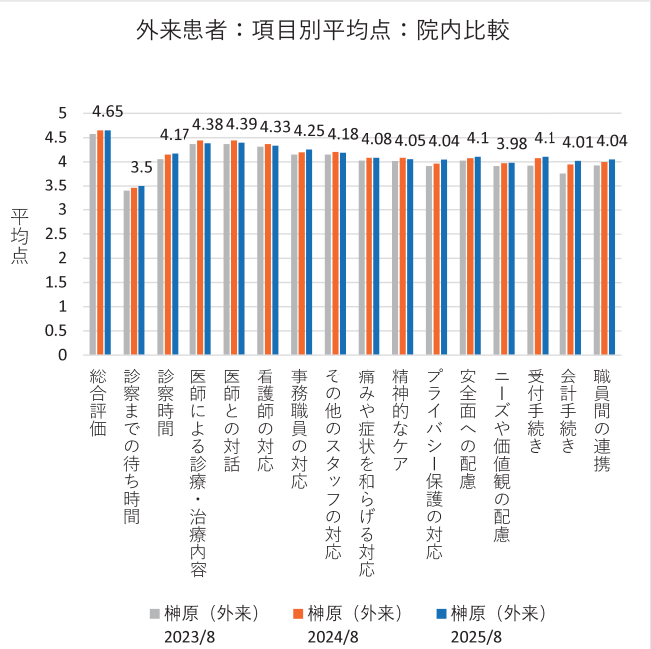
平均点：「とても満足」5点、「やや満足」4点、「ふつう」3点、「やや不満」2点、「とても不満」1点として点数化し集計した数値

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【患者満足度調査：院内比較】

院内比較においては、入院患者の食事について毎年改善傾向にある。

外来の総合評価においては、前年度と変わらず、高い評価を維持している。





平均点：「とても満足」5点、「やや満足」4点、「ふつう」3点、「やや不満」2点、「とても不満」1点として点数化し集計した数値

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【感染管理対策】

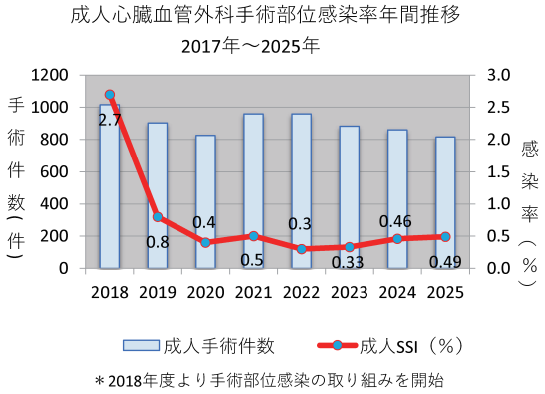
感染症法第一種協定指定医療機関（2024年度～）

1. 概要

- 新型インフルエンザ等感染症若しくは指定感染症の患者又は新感染症の所見がある者を入院させ、必要な医療を提供する医療機関として東京都から指定。
- 受入病床2床の確保。病床確保のみだけでなく後方支援及び医療人材派遣も同様に積極的に実施。

2. 当院における主な活動

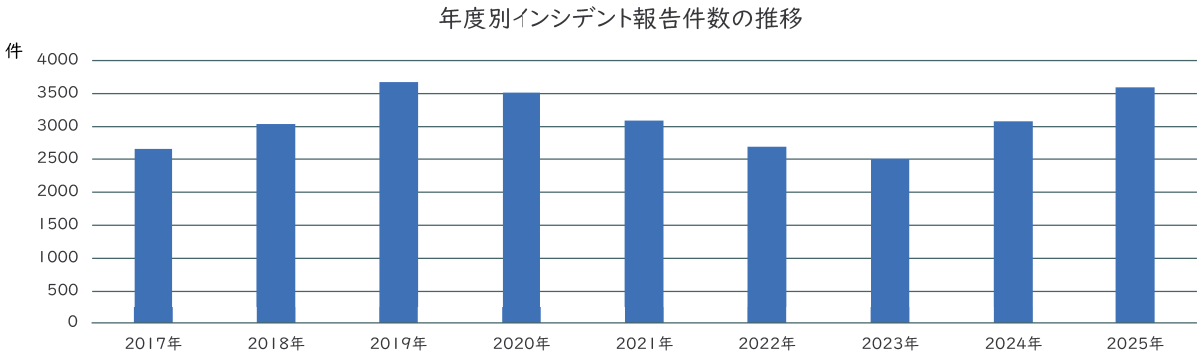
- 新興感染症の発生時を想定した地域連携に係る体制について連携病院・クリニック及び医師会、保健所とともに協議 / 実践（年間）/2025年度：4回参加
- COVID-19感染症入院加療件数 / 2025年度：40件



周術期感染対策	2025年度
手術部位感染率（%）	0.49
尿道留置カテーテル感染率（%）	0.29
中心静脈カテーテル感染率（%）	0.09
術前抗菌薬 CEZ 使用率（%）	100
＊周術期感染対策のサーベイランスでは、全て低値となり術前抗菌薬も適切に使用されている状況	

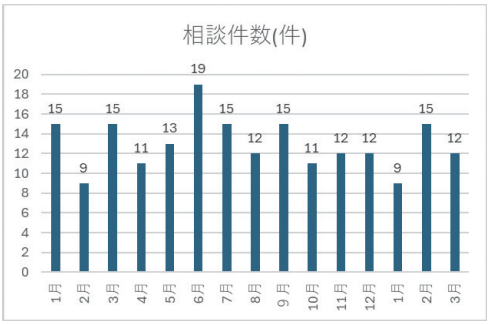
【熱水自動洗浄装置（ベッドパンウォッシャー）2台更新】
対象病棟：4階1病棟、4階2病棟
熱水自動洗浄装置の耐用年数が過ぎ、年間故障 / 修理回数も増加しているため、使用頻度の高い病棟から2台更新。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【医療安全管理体制】



・インシデント報告件数は3,595件（前年度3081件）であった。
・医師のインシデント報告の割合10%を目標に取り組んでいるが、全体の報告数の増加もあり6.9%で推移した（前年度8.6%）。
・薬剤師が疑義紹介を積極的に報告するようになり、報告の割合が6.3%（前年度3.6%）へ増加した。
・診断書等の書類作成の遅延は、これまでは報告されていなかった。しかし、事務職員の業務に支障を生じていることから、インシデントレポートとして提出された。このため、事務職員の報告割合が14.8%へ増加した。医療の質・安全管理部が実態を把握し、各診療科へ依頼することにより個々の医師への周知および介入を行った。その結果、書類遅延に関する報告の減少と事務職員の業務改善につながった。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供【東京都 脳卒中・心臓病等総合支援センター 事業】



１．「心臓病総合相談窓口」を通じた患者・家族の相談支援

・相談マニュアルや Q&A は、定期的に更新するとともにホームページに掲載。

相談件数（メール相談）：計 156 件（2025/4/1～2026/3/31）

２． 両立支援ネットワークの拡充

医療従事者を対象とした「心臓病両立支援ネットワーク」研修会を開催。

・仕事との両立を推進するために医療従事者が果たすべき役割等について周知

・企業や産業医の視点等を踏まえた両立支援を推進するための実践方法等について協議

2025年7月28日　全国の医療従事者774名

2025年12月3日　産業医、医療従事者　計110名

３． 医療機関連携・協議会活動

東京都内での連携体制の構築　心臓病総合支援連絡協議会の病院（20施設）グループを形成。

年2回　hybrid 開催

第1回　2025年7月11日　コア施設（20病院）で開催

第2回　2026年1月16日　コア施設/東京都 CCU ネットワーク/東京都心リハネットワークから102名参加（多職種含む）

都内の幅広い横展開⇒討議、進捗、次年度の予定を確認

① 診療部門　（部門長：中山敦子　榊原記念病院）

② 相談・啓発部門　（部門長：時田祐吉　日本医科大学）

③ 両立支援部門　（部門長：水野篤　聖路加国際病院）

④ 緩和・療養支援部門　（部門長：河野隆志　杏林大学）



４． 公開講座・教室等を通じた啓発・市民支援活動

多くの市民が参加可能な公開講座や体験型教室等、計8回　開催

※詳細は、二、その他　【患者・市民への啓発活動の継続、発展】で報告する。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【心不全サポート事業】

◇ふだてん勉強会

多摩地域全体で、心不全医療に関する知見や想いを「紡ぐ」ことを目的とした勉強会。

開　催：計3回（2025年8月～ 2026年2月）

対　象：地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等

参加者：医師、看護師、薬剤師、理学･作業療法士、言語聴覚士、栄養士、ケアマネージャー、MSW、事務、市役所職員、医師会職員等

延べ　277名

◇心不全療養指導士交流会

開催日：計1回（2025年1月）

対　象：都内在籍の心不全療養指導士及び心不全診療に携わる医療従事者

参加者：医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、栄養士、MSW

79名

◇看護・介護関係者向け研修会

開　催：計８回（2024年2月～ 2025年3月）

対　象：地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護福祉施設等

参加者：医師、看護師、介護支援専門員、薬剤師、理学・作業療法士、MSW、介護福祉士、事務等

延べ　273名

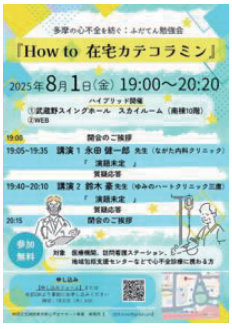
◇北多摩南北医療圏地域連携交流会≪ Heart link ≫

開催日：計４回（2024年6月～ 12月）

対　象：北多摩北部・南部医療圏内の循環器急性期診療に携わる病院

参加者：医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、社会福祉士、臨床工学技士、MSW 等

延べ　123名



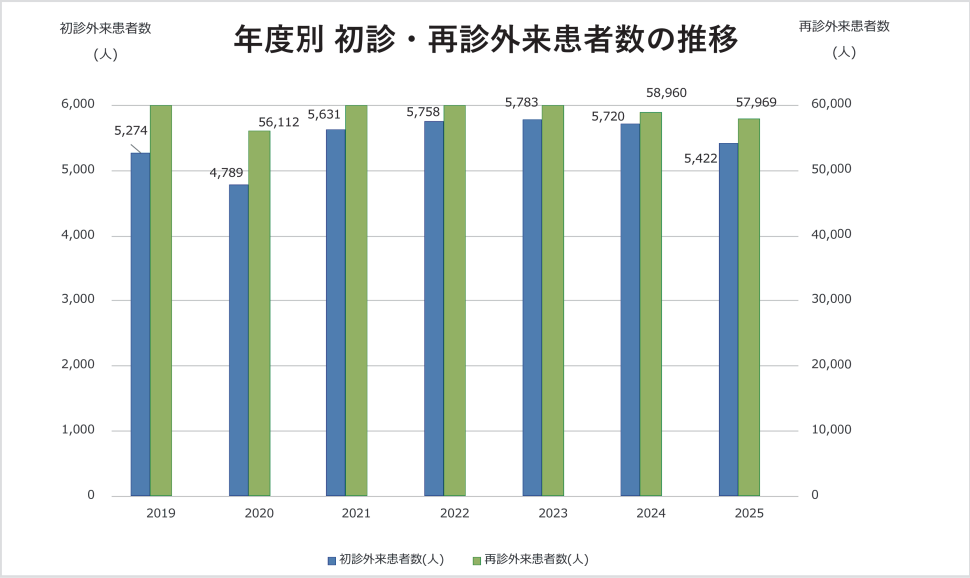


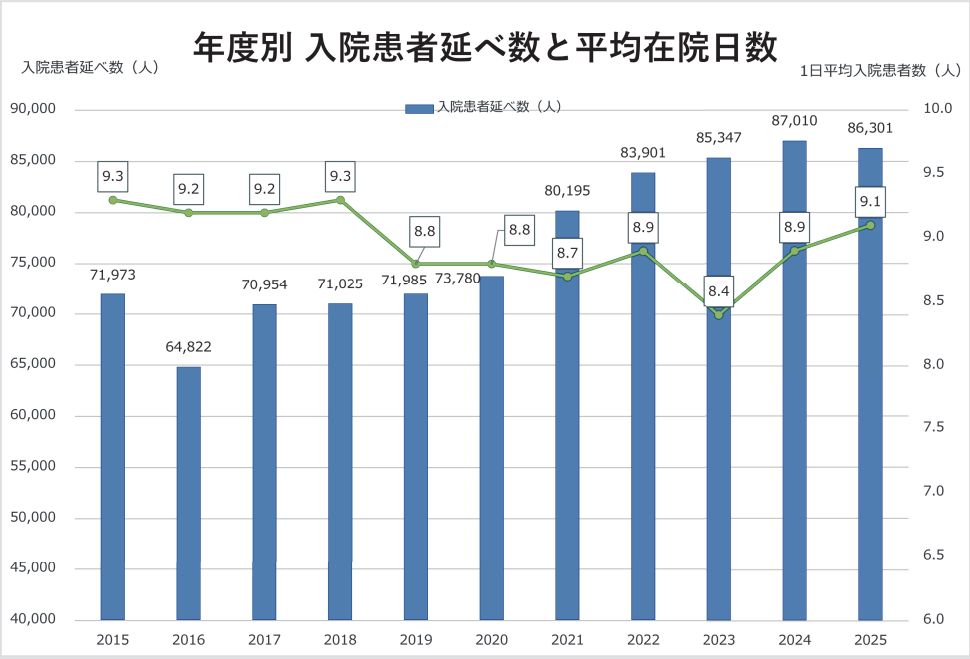


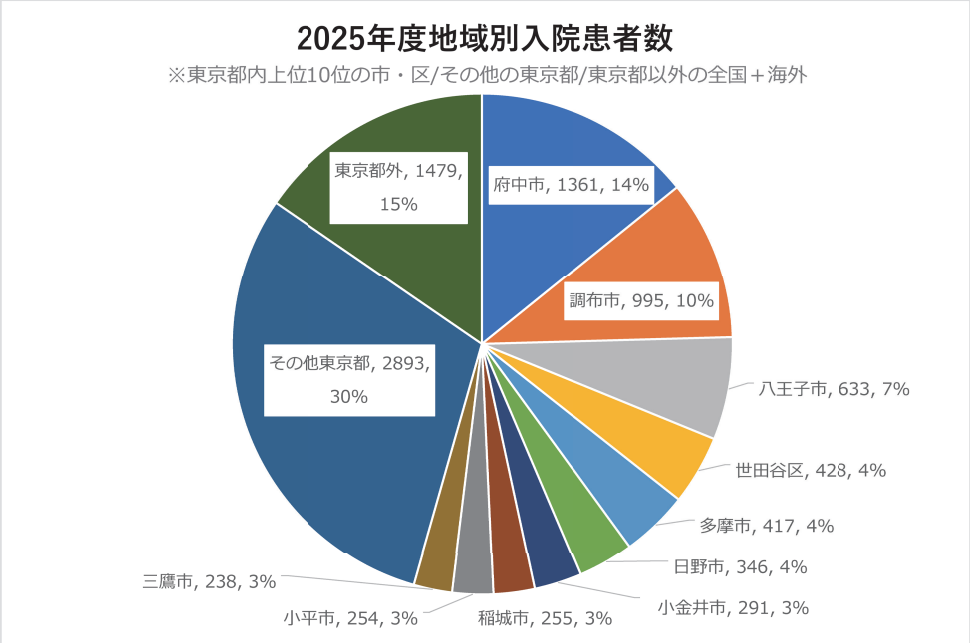


はーとサポート net

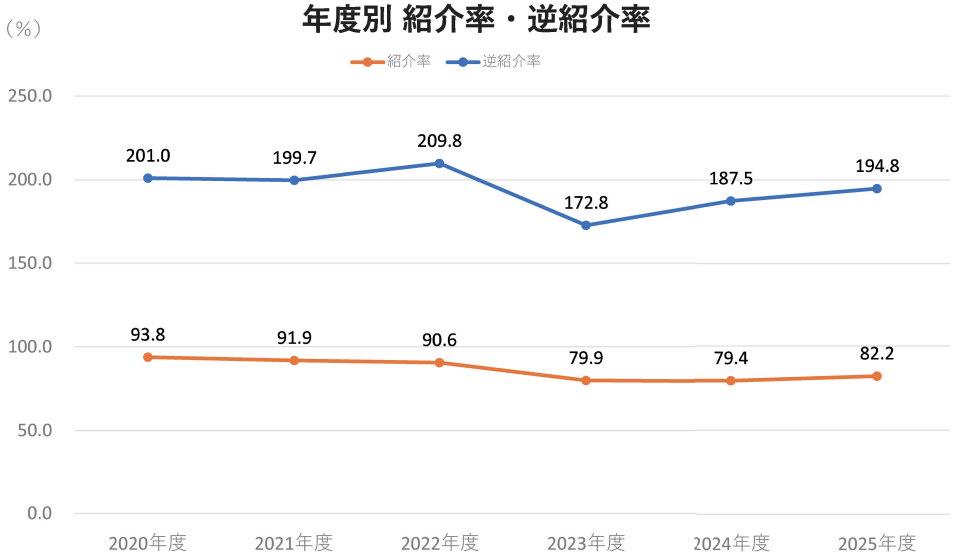
一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【2025年度 _ 診療実績】



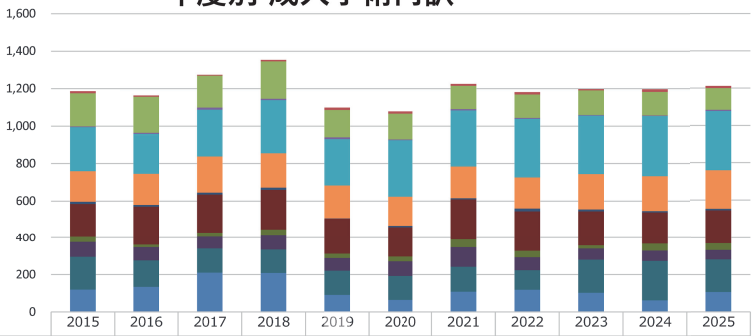




年度別 紹介率・逆紹介率

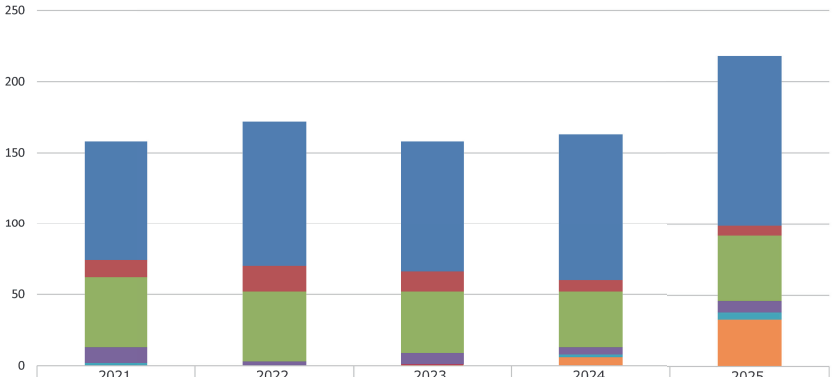


年度別 成人手術内訳



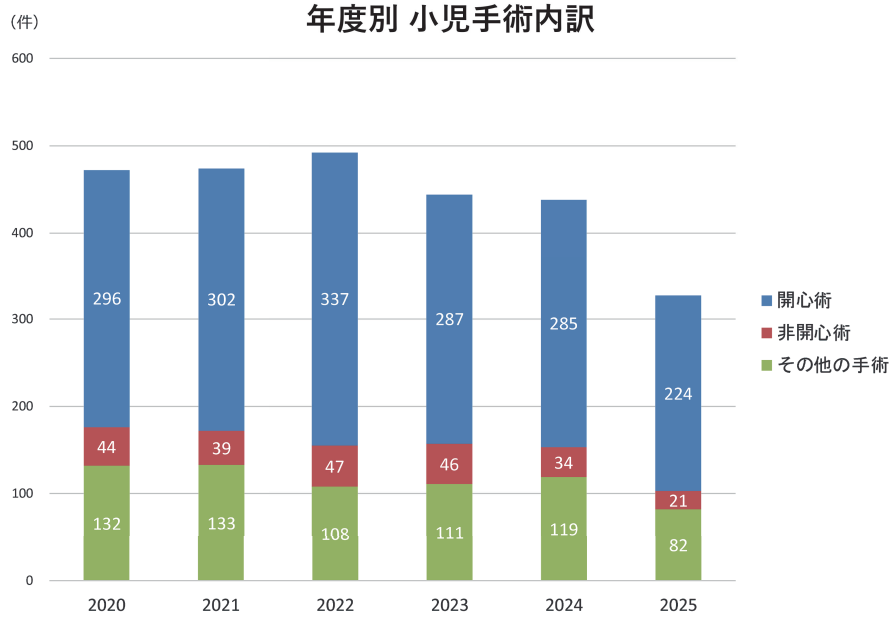
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
オンポンプ冠動脈バイパス術	10	6	5	7	12	11	10	12	6	13	12
オフポンプ冠動脈バイパス術	177	192	170	200	147	138	124	125	132	126	116
心筋梗塞合併手術	4	6	11	7	9	4	7	5	3	3	7
弁膜症手術	236	213	250	284	247	302	299	313	312	321	318
胸部大血管手術	162	166	193	183	176	155	169	166	189	186	206
先天性心疾患手術	13	10	10	12	2	8	7	15	10	8	9
複合手術	180	209	205	213	193	162	219	217	188	172	174
その他の胸部心臓大血管手術	28	13	25	29	24	27	42	35	17	38	37
腹部血管手術	80	72	65	83	68	78	106	69	59	55	51
末梢血管手術	176	142	129	126	129	128	133	105	178	212	175
その他の手術	120	134	211	209	92	65	109	119	103	62	107

年度別 MICS（3D内視鏡下/小切開低侵襲心臓手術）件数

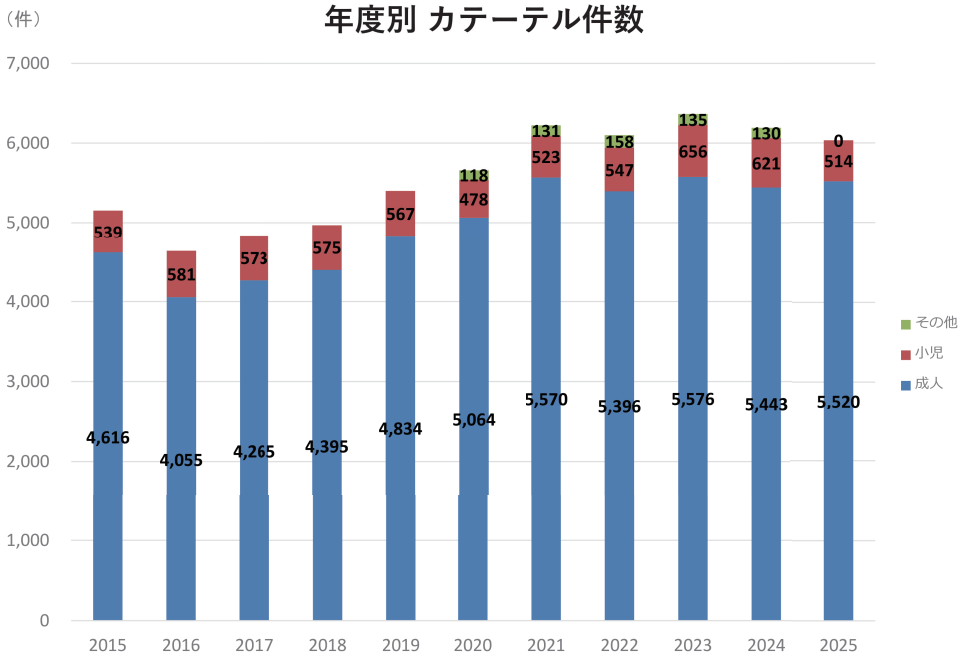


	2021	2022	2023	2024	2025
僧帽弁形成術/置換術	84	102	92	103	119
心房中隔欠損修復術	12	18	14	8	7
大動脈弁置換術	49	49	43	39	46
冠動脈バイパス術	11	3	8	5	8
左心耳閉鎖術単独	2	0	0	2	5
その他	0	0	1	6	33

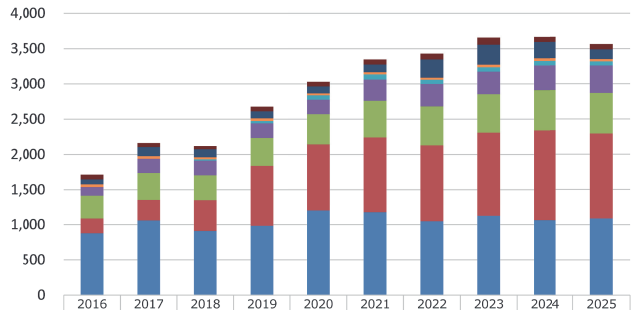
年度別 小児手術内訳



年度別 カテーテル件数

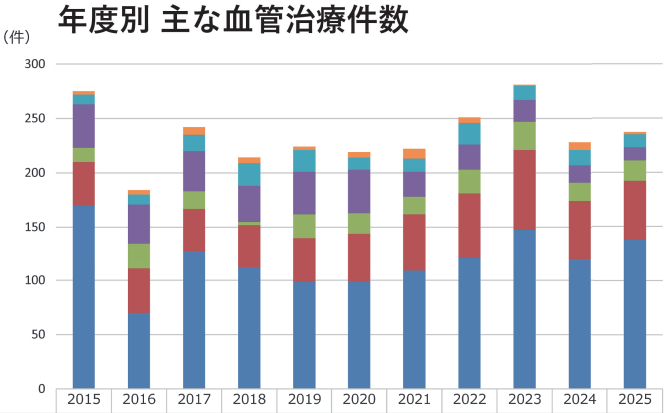


年度別 主な成人治療実績



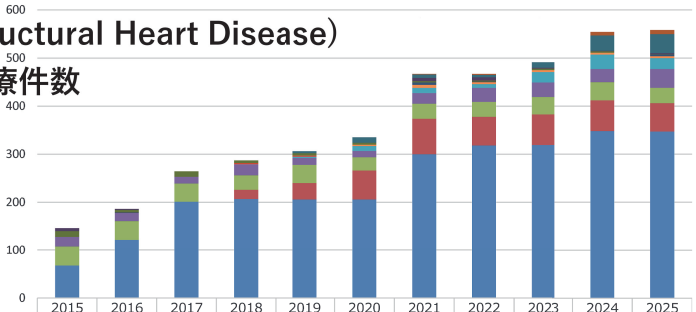
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
腹部/胸部ステントグラフト内挿術(EVAR/TEVAR)	65	55	43	63	64	69	81	99	70	73
末梢血管形成術(EVT)	70	128	112	99	99	109	257	283	231	138
経皮的心室中隔焼灼術(PTSMA)	39	38	30	38	28	31	31	36	38	32
僧帽弁Edge-to-edge修復術(MitraClipなど)	0	0	19	34	60	74	60	64	64	59
大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)	122	201	207	206	206	300	318	319	348	389
植込み型不整脈治療機器手術	330	384	353	396	431	519	553	546	572	577
アブレーション	209	295	443	855	941	1,066	1,080	1,185	1,277	1,204
経皮的冠動脈形成術(PCI)	878	1,060	910	985	1,201	1,177	1,049	1,124	1,064	1,090

年度別 主な血管治療件数



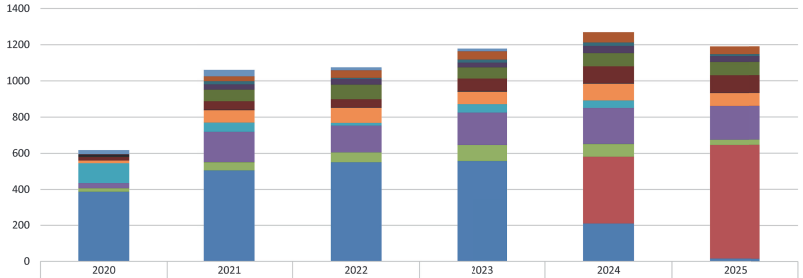
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
末梢動脈形成術＆内膜摘除術	3	4	7	5	3	5	9	5	1	7	2
血栓除去術(Fogarty)	9	9	15	21	20	11	12	20	13	14	12
コイル塞栓術	40	36	37	33	39	40	23	23	20	16	12
胸部ステントグラフト内挿術(TEVAR)	13	24	16	3	22	19	16	22	26	17	19
腹部ステントグラフト内挿術(EVAR)	40	41	39	40	41	45	53	59	73	53	54
末梢血管形成術(EVT)	170	70	128	112	99	99	109	122	148	121	138

年度別SHD（Structural Heart Disease）構造的心疾患治療件数



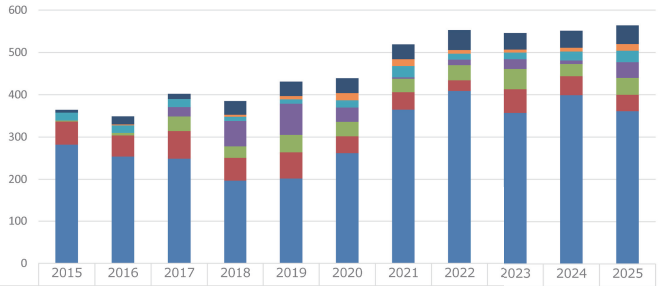
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
経皮的肺動脈弁置換術（TPVI/TPVR）	0	0	0	0	0	0	1	2	0	7	8
左心耳閉鎖術（Watchman）	0	0	0	0	4	11	7	5	11	32	40
大動脈弁形成術（PTAV）	6	2	0	0	0	0	7	7	2	1	2
僧帽弁交連切開術（PTMC）	12	5	11	6	5	4	3	2	3	3	1
三尖弁クリップ術（TriClip）	0	1	0	0	0	0	5	1	0	0	3
動脈管閉鎖術（ADO）	0	0	0	2	2	3	6	4	4	4	4
卵円孔閉鎖術（PFO）	0	0	0	0	3	10	11	8	22	30	23
心房中隔欠損閉鎖術（ASDO）	20	17	14	23	14	13	22	29	30	27	39
経皮的心室中隔焼灼術（PTSMA）	40	39	38	30	38	28	31	31	36	38	32
僧帽弁クリップ術（MitraClip）	0	0	0	19	34	60	74	60	64	64	59
大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）	68	122	201	207	206	206	300	318	319	348	347

年度別 アブレーション治療の内訳



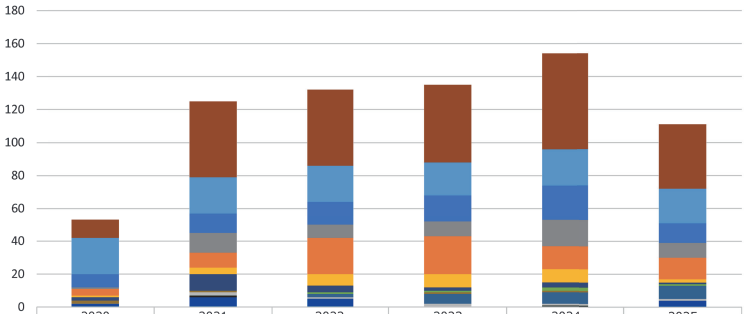
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
PVI Heart light	22	35	15	14	0	0
AFL RF	2	27	42	46	56	43
WPW RF	3	17	6	17	19	10
VT RF	4	30	31	26	40	33
PVC RF	6	64	81	62	73	73
AT RF	20	47	45	68	93	96
VT epi		2	2	4	3	3
PSVT RF	14	69	84	69	93	71
PVI HotBallon	110	51	15	47	41	0
redo-PVI	29	167	148	179	199	186
PVI RF	19	46	54	88	71	30
PVI PFA					371	630
PVI Cryo	388	506	551	558	210	16

年度別 植込み型不整脈治療機器手術件数



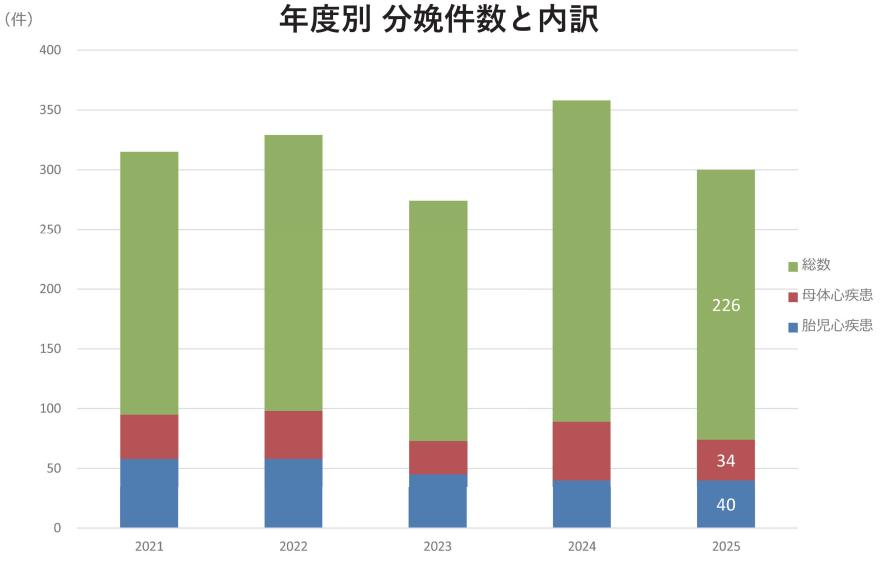
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
植込み型ループレコーダー（ILR）	6	19	12	32	34	35	35	47	39	40	44
両心室ペースメーカ（CRT-P）	0	2	0	5	8	17	16	9	7	9	16
両心室ペーシング機能付き植込み型除細動器（CRT-D）	19	18	19	10	10	17	27	14	16	21	27
リードレスペースメーカ	0	0	22	60	74	34	3	13	23	8	37
皮下植込み型除細動器（S-ICD）	2	6	35	27	41	34	32	36	48	29	40
植込み型除細動器（ICD）	55	50	65	54	62	40	41	25	56	45	39
ペースメーカ（PM）	282	254	249	197	202	262	365	409	357	399	361

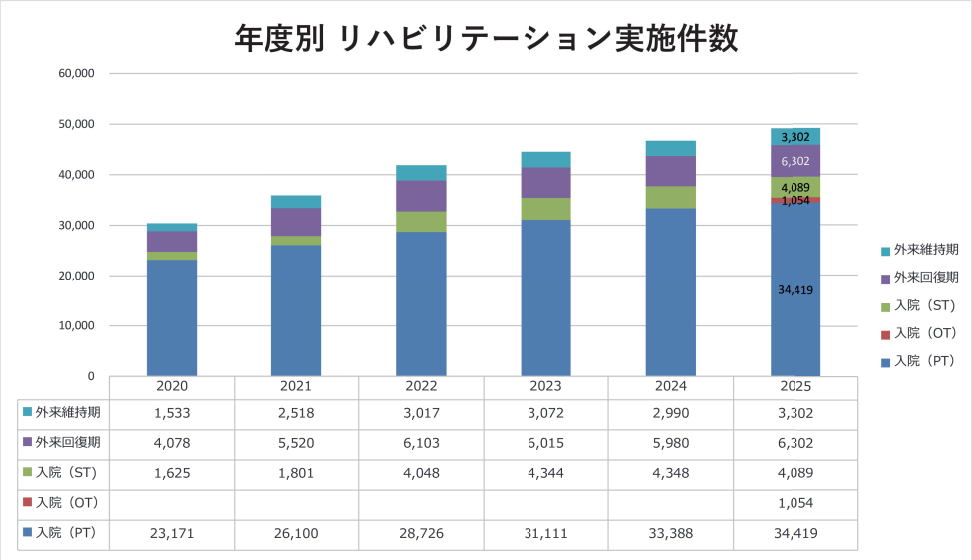
年度別 小児カテーテル治療の内訳



	2020	2021	2022	2023	2024	2025
肺動脈拡張術(PTPA)	11	46	46	47	58	39
コイル塞栓術	22	22	22	20	22	21
動脈管閉鎖術(ADO)	8	12	14	16	21	12
肺動脈弁形成術(PTPV)	1	12	8	9	16	9
心房中隔欠損閉鎖術(ASDO)	4	9	22	23	14	13
心房中隔裂開術(BAS)	1	4	7	8	8	2
血管形成術(PTA)	2	10	4	2	3	1
経皮的ステント留置術(PCI)			1	1	2	1
肺静脈閉塞バルーン拡張術(PVO balloon)	2	1	0	1	1	0
経皮的肺動脈弁留置術(TPVI/TPVR)			2	6	7	8
プラグ塞栓術(AVP)	0	2	1	2	1	1

年度別 分娩件数と内訳

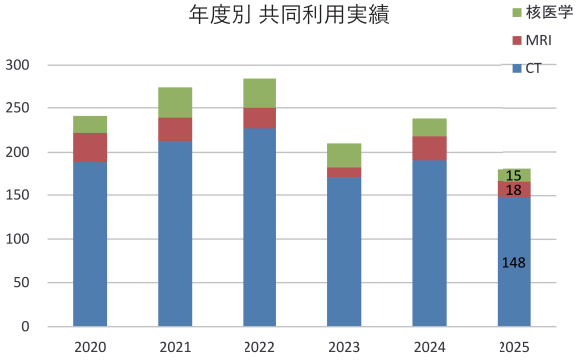




	2020	2021	2022	2023	2024	2025
外来維持期	1,533	2,518	3,017	3,072	2,990	3,302
外来回復期	4,078	5,520	6,103	5,015	5,980	6,302
入院（ST）	1,625	1,801	4,048	4,344	4,348	4,089
入院（OT）						1,054
入院（PT）	23,171	26,100	28,726	31,111	33,388	34,419

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【共同利用実績／ファストエコー／休日診療】

共同利用実績



共同診療件数	0件
高額医療機器共同利用件数	CT：148件、MRI：18件、核医学：15件 【合計】181件
共同利用病床数	0
共同利用病床利用率	0.0%
共同利用施設・設備	すべての診療設備を対象としている
登録医情報	270名、241施設

ファストエコー

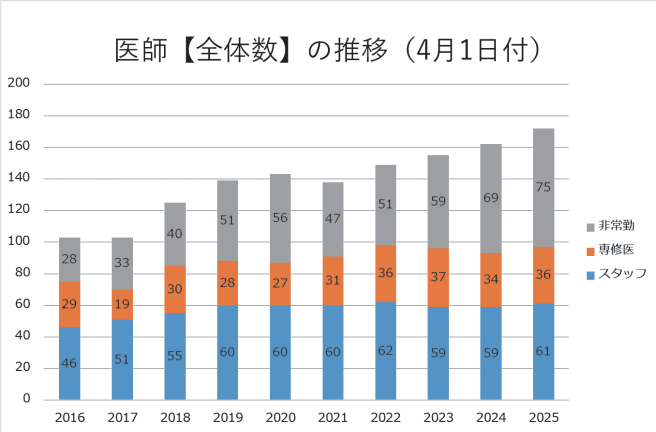
府中市では府中市医師会と共同して、全国に先駆けて、特定検診に NT-ProBNP の測定を導入

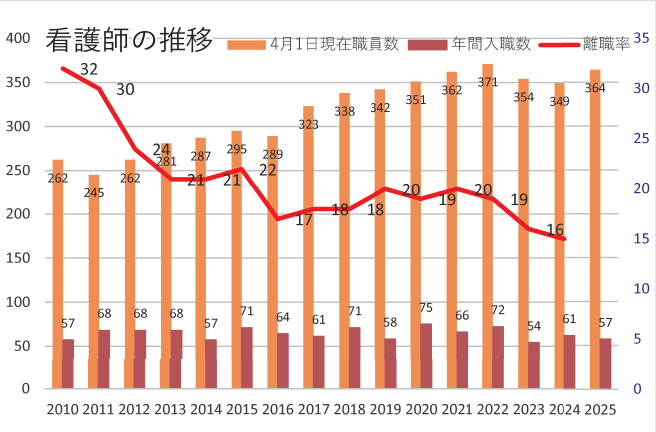
- 登録医を中心に、エコーの申請に対応している。
- 放射線科の読影体制について共有し、引き続き、地域のニーズに応える。
- 2025年度（2025/4 ～ 2026/3）総数；122 件

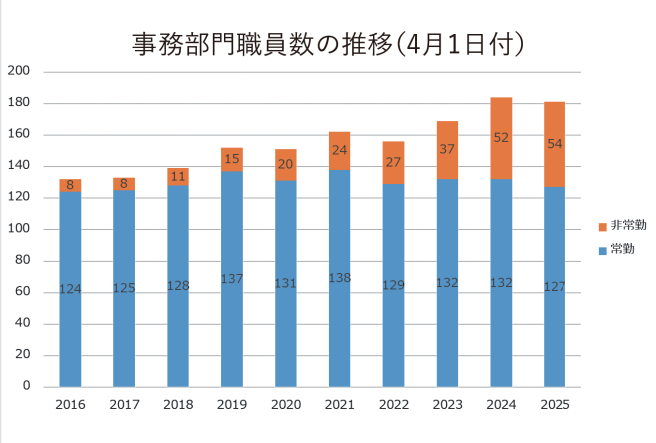
休日・祝日診療

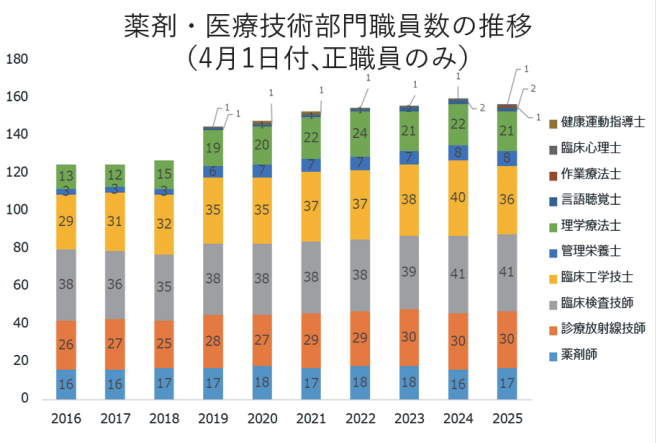
連休中における地域医療体制の充実等を図るため、祝日に診療体制日を設けており、2025年度は、5月5日（月）、12月29日（月）を通常診療日とした。

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【職員数　各年4月1日付】









一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【施設・設備】

2025/4	許可病床数３０３床へ変更した。 厚生労働省の病床数適正化への対応（307 床→ 303 床） CCU 部門病床 8 床（12 床→ 8 床）処置室 4 室（減 4 床の用途変更）	
2025/4	モービル CCU の車両を更新した。 電動ストレッチャや電気的除細動・経皮的ペーシングが可能な高性能モニターも搭載した。Mobile 車両のデザインは、当院の職員が担当した。	
2025/7	１階外来へ大型モニターを新設した。 院内の患者及び家族へ、病院からの情報を動画でご案内。	

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【新たな医療技術】

2026/3	本邦初となる「TriClip™ システム」を用いた三尖弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療に成功した。	
2026/3	人工弁置換術後の弁周囲逆流（PVL）に対する経カテーテル閉鎖術を初症例に成功した。	

一、安全・安心・良質な医療サービスの提供　【その他】

2025/12	小児病棟クリスマス会を開催した。 「サンタパレード東京」よりプレゼント、読み聞かせ、ワークショップを開催。また外来にて、イベントアンバサダー「リラックマ」との記念撮影会も行った。	
2026/1	病院ホームページを全面的に改修した。 2026 年 1 月 15 日公開 リニューアルオープン	

二、その他　【東京都脳卒中・心臓病等総合支援センター事業の活動】

日付	カテゴリー	テーマ	対象者	参加者数	内容
2025/7/27	予防 . 疾患啓発セミナー心臓を守る親子教室	病院を探検してみよう！医療のお仕事を体験してみよう！	小学3年生～中学3年生と保護者	120名	① 病院内探検ツアーに行こう ② 心エコー体験③ 妊婦体験 ④ 心臓の音を聞こう・心臓の弁の治療を知ろう⑤ AED を使ってみよう ⑥ 医療機器を知ろう
2025/8/10	都民公開講座 / 心臓と向き合う100年ライフ	～もしものとき、どうする？～	一般市民	103名	講演「脳・心臓から生活習慣まで、未来の自分を守るヒント」
2025/10/17	予防 . 疾患啓発セミナー心臓を守る運動教室	予防のための生活のススメ心臓にやさしい運動	一般市民	30名	講演「心不全？予防のための生活のススメ」 講演「学んで納得！心臓にやさしい運動のコツ」 実技「動いて実感！心臓にやさしい運動の実践」
2025/11/22	予防 . 疾患啓発セミナー心臓を守るお料理教室	医療との上手な付き合い方地中海料理のレシピ	一般市民	36名	講演「かしこく受診、すっきり解決！～医療との上手な付き合い方～」 実演 ～健康レシピの料理実演～ 実食 ～会食～ 講演「お手軽な地中海料理の実践～健康的な食事とは～」
2026/1/17	予防 . 疾患啓発セミナー心臓を守るお薬教室	生活習慣病と心臓病の関わり	一般市民	45名	講義「生活習慣病が引き起こす心臓病：原因と予防策を学ぼう」 講義「心臓を悪くしないために：服薬の大切さ」 講習「上手なおくすりの飲み方のコツ」 模擬薬を使って、お薬を飲む練習をしましょう
2025/7/28	心臓病両立支援	患者さんの「働きたい」を支えるために	医療従事者	774名 WEB 参加	勉強1. 心臓病患者を支える制度と経済的支援 勉強2. CPX を踏まえた就労判断プロセスの紹介 特別講演 安全配慮義務の労働者保護法制度と医療職の留意事項
2025/12/3	心臓病両立支援	職場と医療の連携による新たな実践	医療従事者	110名	産業医からの視点 「企業事例より心疾患等の就労両立支援のポイントについて考える」 患者からの視点 「産業医の立場からみた両立支援の課題と連携の可能性」
2025/11/25	ピアサロン	疾患の自己認識や生活に必要な情報の共有、患児の自立支援	当院通院中の術後患者・保護者	19名	自分の体にとっていいこと、自分の体を大切にする方法を学ぼう

二、その他　【東京都心不全サポート事業の活動】

日付	カテゴリー	テーマ	対象者	参加者数	内容
2025/8/1	多摩の心不全を紡ぐ：ふだてん勉強会『How to 在宅カテコラミン』	在宅カテコラミン療法について	医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどで心不全診療に携わる方	124名	【参加者職種】 ①医師 ②看護師 ③介護支援専門員 ④薬剤師 ⑤理学療法士 ⑥作業療法士 ⑦MSW ⑧その他（介護福祉士、連携室等）
2025/11/14	多摩の心不全を紡ぐ：ふだてん勉強会『在宅医療のくすりの話』	在宅での薬の管理について	急性期病院の心不全チームや退院支援に関わるスタッフ、在宅医療に従事する医師やコメディカル	87名	
2026/2/6	多摩の心不全を紡ぐ：ふだてん勉強会『“がん”に学ぶ ～緩和ケアとACP～』	ACP・緩和ケアについて	多摩地区の心不全診療や地域連携、退院支援に携わる医師およびコメディカル	83名	
2026/2/26	心不全サポート事業 施設交流会	多職種心不全チームが施設を訪問し、ショートレクチャー・質疑応答	介護老人保健施設 職員	17名	看護師 理学療法士 介護福祉士 栄養士 MSW 事務員
2026/3/18	心不全サポート事業 施設交流会	多職種心不全チームが施設を訪問し、ショートレクチャー・質疑応答	介護老人保健施設 職員	15名	看護師 理学療法士 介護福祉士 栄養士 MSW 事務員

二、その他　【医療従事者向け教育・啓発活動の継続、発展】

神明台ハートセミナー / 全国 WEB 配信（医療者向け）

開催日	タイトル	講師
2025/4/18	冠動脈疾患二次予防における薬物インターベンションの重要性 - 地域における Drag delivery system- 構築の意義	京都田辺中央病院 若菜　紀之
2025/5/16	見逃してはいけないファロー四徴症遠隔期の再介入。安心してください。再開胸を避けられます：経カテーテル肺動脈弁留置術	東京女子医科大学 小暮　智仁
2025/6/20	抗凝固療法の「常識」に物申す	日本医科大学武蔵小杉病院 長尾　毅彦
2025/7/25	HF ｐＥＦ患者の健康寿命の延伸に貢献するために～息切れ外来の取り組み～	群馬大学医学部附属病院 小保方　優
2025/9/12	私のおすすめ漢方処方と使い方のコツ	新神戸きたむら内科循環器・漢方クリニック / 島根大学 北村　順
2025/10/17	Treatable disease としての肥大型心筋症～マバカムテンの立ち位置～	高知大学医学部 老年病・循環器内科 北岡　裕章
2025/11/21	CDK の薬物療法 Do’s and Don’t s	武蔵野赤十字病院 腎臓内科 部長 高橋　大栄
2025/2/20	実臨床における血圧管理～当院での ARNI 投与症例～ 心不全ステージ B を逃さない！～ JSH2025から考える臓器保護を見据えた高血圧診療～	榊原記念病院 循環器内科 舟木　孝志 たちばな台クリニック 院長 山嵜　継敬

小児・周産期 webinar シリーズ

①ボストン小児病院・榊原記念病院共催 小児循環器病 webinar シリーズ

開催日	テーマ	症例報告	参加人数
2025/04/17	Cardiac ECMO の実際	正谷憲宏	68
2025/05/15	VAD	矢崎諭	45
2025/06/19	成人先天性心疾患の症例	木島康文	61
2025/07/17	心筋症	嘉川忠博	35
2025/08/21	小児心筋症の MRI とその他心筋の異常所見	大滝裕香	47
2025/09/18	フォンタンの長期合併症	山口 翔	46
2025/10/16	TPVI 総論	矢崎諭	57

②基礎から始める　胎児心エコー webinar シリーズ

開催日	演題名	講師	参加者数
2025/4/23	【3V 1】正常3VV&3VTV の異なる見え方	浜道裕二	14
2025/5/28	【3V 2】大動脈縮窄のスクリーニングには3VV&3VTV が便利	浜道裕二	24
2025/6/25	【流出路4】大血管の後方起始 / 前方起始を使ってみよう	浜道裕二	23
2025/7/23	【3V 3】ファロー四徴の見逃しは3VTV で挽回する	浜道裕二	19
2025/8/27	【4ch5】VSD を伴わない肺動脈閉鎖（PAIVS）は4ch が特徴的	浜道裕二	13
2025/9/24	【3V 4】肺動脈閉鎖（PAIVS）の3VV：典型的な2D ＆カラー所見	浜道裕二	19
2025/10/22	【3V 5】肺動脈閉鎖（PAIVS）の3VTV は肺動脈狭窄疾患の基本	浜道裕二	15
2025/11/26	【腹1】右側相同の腹部～ 4ch：習うより慣れよ	浜道裕二	14
2025/12/24	【4ch6】TAPVR の肺静脈血流は正常還流にみえる ―右側相同4ch で学ぶ―	浜道裕二	11
2026/1/28	【流出路5】大血管転位（左右並走型）の流出路は手がかりが多い	浜道裕二	11
2026/2/25	【流出路6】大血管転位（上下並走型）の流出路は見逃しやすい	浜道裕二	11
2026/3/18	【4ch7】内臓逆位の心房・心室を同定する	浜道裕二	8

当院の医師派遣による技術指導；延べ38施設、指導件数 / 延べ57件

医療機関名	指導内容
AOI 国際病院（1件）	Farapulse 技術指導
JR 東京総合病院（1件）	心臓麻酔技術指導
いわき市医療センター（4件）	ASD 閉鎖技術指導／ ASD 閉鎖技術指導（ワイヤーフレーム型）／ ASD 閉鎖技術指導（Figulla Flex2）／心室頻拍に対するカテーテルアブレーション技術指導
慶應義塾大学病院（1件）	PFO 技術指導
国立成育医療研究センター（1件）	Ross 手術技術指導
埼玉医科大学国際医療センター（1件）	ASD 閉鎖技術指導
札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック（1件）	Brugada 症候群に対するアブレーション技術指導
聖路加国際病院（4件）	PFO 技術指導／ MitraClip 技術指導、Fontan 術後症例の VV シャント閉鎖の技術指導
千葉西総合病院（1件）	PulseSelect PFA システム技術指導
東邦大学医療センター大森病院（2件）	PTSMA 技術指導
虎の門病院（1件）	MitraClip 技術指導
新潟県立中央病院（2件）	エキシマレーザーリード抜去技術指導、S-ICD 講義及び技術指導
日本医科大学付属病院（2件）	MitraClip TTE&TEE Workshop ／サビエン技術指導
日本海総合病院（2件）	MitraClip 技術指導
浜松医科大学医学部附属病院（1件）	PASCAL 技術指導
弘前大学医学部附属病院（3件）	PFO 技術指導
	PASCAL 技術指導
山梨大学医学部附属病院（1件）	経皮的リード抜去術（高難度医療）技術指導
横浜市立みなと赤十字病院（1件）	PTMC 技術指導

医療機関名	指導内容
横浜市立大学附属市民総合医療センター（1件）	PTSMA 技術指導
群馬大学医学部附属病院（1件）	MitraClip 技術指導
済生会横浜市東部病院（2件）	PTMC 技術指導、PASCAL 技術指導
埼玉石心会病院（2件）	PFO 技術指導
札幌孝仁会記念病院（1件）	エキシマレーザーリード抜去技術指導
市立青梅総合医療センター（1件）	TAVI 技術指導
新潟大学医歯学総合病院（2件）	PASCAL 技術指導
川崎幸病院（1件）	PTMC 技術指導
東京医科大学病院（2件）	心筋生検／バルーン肺動脈弁形成術の技術指導
東北大学病院（2件）	PFO 技術指導／ ASD 閉鎖術（ゴア）技術指導
福井大学医学部附属病院（1件）	TAVI 技術指導
福島県立医科大学会津医療センター（2件）	PulseSelect 技術指導／ Farapulse 技術指導
柏厚生総合病院（1件）	MitraClip 技術指導
かわぐち心臓呼吸器病院（1件）	PASCAL Precision システム技術指導
東京逓信病院（1件）	不整脈患者に対する経皮的アブレーション治療並びに技術指導
杏林大学医学部付属病院（1件）	PFA 技術指導
下越病院（1件）	技術指導
高知医療センター（1件）	PASCAL 技術指導
山梨中央病院（2件）	Evolut 技術指導
東京西徳洲会病院（1件）	S-ICD 植込み技術指導

医師の見学受け入れ；141施設、延べ310名

≪内訳≫
循環器内科199名、心臓血管外科94名、小児循環器内科7名、産婦人科1名、麻酔科3名、放射線科1名、集中治療科5名

医療機関名			
池上総合病院	東京都立荏原病院	熊本赤十字病院	千葉大学医学部附属病院
イムス葛飾ハートセンター	東邦大学医療センター大橋病院	慶應義塾大学病院	船橋市立医療センター
医療法人財団明理会行徳総合病院	獨協医科大学病院	高崎総合医療センター	総合南東北病院
いわき市医療センター	都立小児総合医療センター	高知大学医学部附属病院	大阪大学心臓血管外科
大森赤十字病院	新潟大学医歯学総合病院	国立国際医療センター	筑波大学附属病院
岡山大学病院	日本医科大学多摩永山病院	国立循環器病研究センター	帝京大学医学部附属病院
沖縄県立中部病院	日本医科大学付属病院	済生会横浜市東部病院	東海大学医学部付属八王子病院
神奈川県こども医療センター	日本大学医学部附属病院	済生会熊本病院	東京ベイ浦安市川医療センター
関東労災病院	浜松医科大学医学部附属病院	済生会福岡総合病院	東京大学医学部附属病院
京都医療センター	兵庫県立こども病院	災害医療センター	東京逓信病院
杏林大学医学部	福岡徳洲会病院	埼玉医科大学国際医療センター	東京都済生会中央病院
倉敷中央病院	福島県立医科大学会津医療センター	埼玉医科大学国際医療センター	東京都立墨東病院
公立昭和病院	藤田医科大学病院	山梨県立中央病院	東邦大学医療センター大森病院
国保旭中央病院	富士病院	山梨大学医学部附属病院	東北大学大学院医学系研究科循環器内科分野
済生会宇都宮病院	北海道立子ども総合医療・療育センター	市立湖西病院	東北大学病院
さいたま赤十字病院	三井記念病院	市立青梅総合医療センター	徳島大学病院
埼玉石心会病院	八尾徳洲会総合病院	自治医科大学	日本赤十字社愛知医療センター
相模原協同病院	山形大学医学部附属病院	循環器内科と心臓リハビリの高針クリニック	武漢大学中南病院
相模原病院	横浜市立大学附属病院	順天堂大学医学部附属順天堂医院	福井大学医学部附属病院
佐久医療センター	りんくう総合医療センター	昭和医科大学医学部	防衛医科大学校病院
自衛隊横須賀病院	愛媛大学医学部附属病院	昭和医科大学江東豊洲病院	北海道大学病院
静岡県立総合病院	杏林大学医学部付属病院	昭和医科大学藤が丘病院	名古屋大学医学部附属病院
自治医科大学附属病院	伊勢赤十字病院	昭和医科大学病院	名古屋第一赤十字病院
湘南鎌倉総合病院	医誠会国際総合病院	信州大学医学部附属病院	立川綜合病院
昭和医科大学横浜市北部病院	医療法人財団荻窪病院	新潟市民病院	JA 愛知厚生連安城更生病院
心臓血管研究所付属病院	医療法人鉄蕉会亀田総合病院	神戸市立医療センター中央市民病院	JCHO 東京新宿メディカルセンター
新東京病院	宇治徳洲会病院	星総合病院	JCHO 九州病院
総合病院土浦協同病院	横須賀市立総合医療センター	聖マリアンナ医科大学	Anhui Provincial Hospital
東海大学医学部付属病院	横浜労災病院	聖マリアンナ医科大学病院	Da Lin Tzu Chi Hospital
東京医科大学	沖縄県立南部医療センターこども医療センター	聖路加国際病院	Fujian Provincial Hospital
東京医科大学八王子医療センター	河裕国際病院	静岡県立こども病院	Guangdong Provincial People's Hospital
東京医科大学病院	岩国医療センター	仙台厚生病院	National Taiwan University Hospital

医療機関名			
東京科学大学病院	岐阜ハートセンター	Taichung Veterans General Hospital	Schüchtermann-Klinik
東京慈恵会医科大学附属病院	亀田総合病院	Xi'an Jiaotong University First Affiliated Hospital	
東京品川病院	宮崎大学医学部附属病院	B. J. Medical College and Civil Hospital, Ahmedabad, Gujarat, India	
東京女子医科大学病院	近畿大学病院	The First Medical Center of the General Hospital of the Chinese People's Liberation Army	

研修医師・学生実習の受け入れ；15施設、延べ29名

医療機関名
心臓血管研究所付属病院（循環器内科研修 1名）
日本医科大学多摩永山病院（産婦人科研修 1名 / 麻酔科研修 1名）
アルテミスウィメンズホスピタル（産婦人科研修 1名）
武蔵野赤十字病院（産婦人科研修 2名 / 臨床遺伝科研修 1名）
横浜旭中央総合病院（麻酔科研修 3名）
日本医科大学武蔵小杉病院（麻酔科研修 1名）
JCHO 東京新宿メディカルセンター（放射線科研修 1名）
貝原レディースクリニック（臨床遺伝科研修 2名）
東京女子医科大学（臨床遺伝科研修 1名）

医療機関名
慶應義塾大学（学生実習 / 循環器内科 1名）
京都大学（学生実習 / 成人外科 1名）
筑波大学（学生実習 / 成人外科 1名）
杏林大学（学生実習 / 小児外科研修 6名）
NPO 法人子ども療養支援協会（学生実習 / 小児科 1名）
聖学院大学（学生実習 / 心理実習 4名）

特定行為研修 指定研修機関

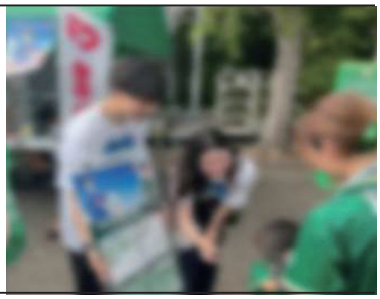
全21区分（38行為）のうち2区分（循環動態に係る薬剤投与関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）の研修を行っており、6名が修了した。



二、その他 【災害対策の推進】

2025/7/18・24	≪自衛消防訓練 / 消火器訓練≫ 府中消防署朝日出張所の隊員ご指導のもと、水消火器での放射訓練を行った。看護部新入職員約 40 名が参加した。 ≪自衛消防訓練≫ 病棟内での地震と火災を想定した自衛消防訓練を実施した。	
2025/10/25	≪府中市合同大規模災害対策訓練≫ 府中消防署・地元自治体・府中警察署・赤十字奉仕団との合同訓練を行った。 被害想定：震度 6 弱、エレベーター使用不可、 PHS 使用可、HIS 使用可、 外線電話不可、FAX 使用不可 訓練内容：本部訓練・病棟訓練、テント設営訓練、 トリアージ訓練	

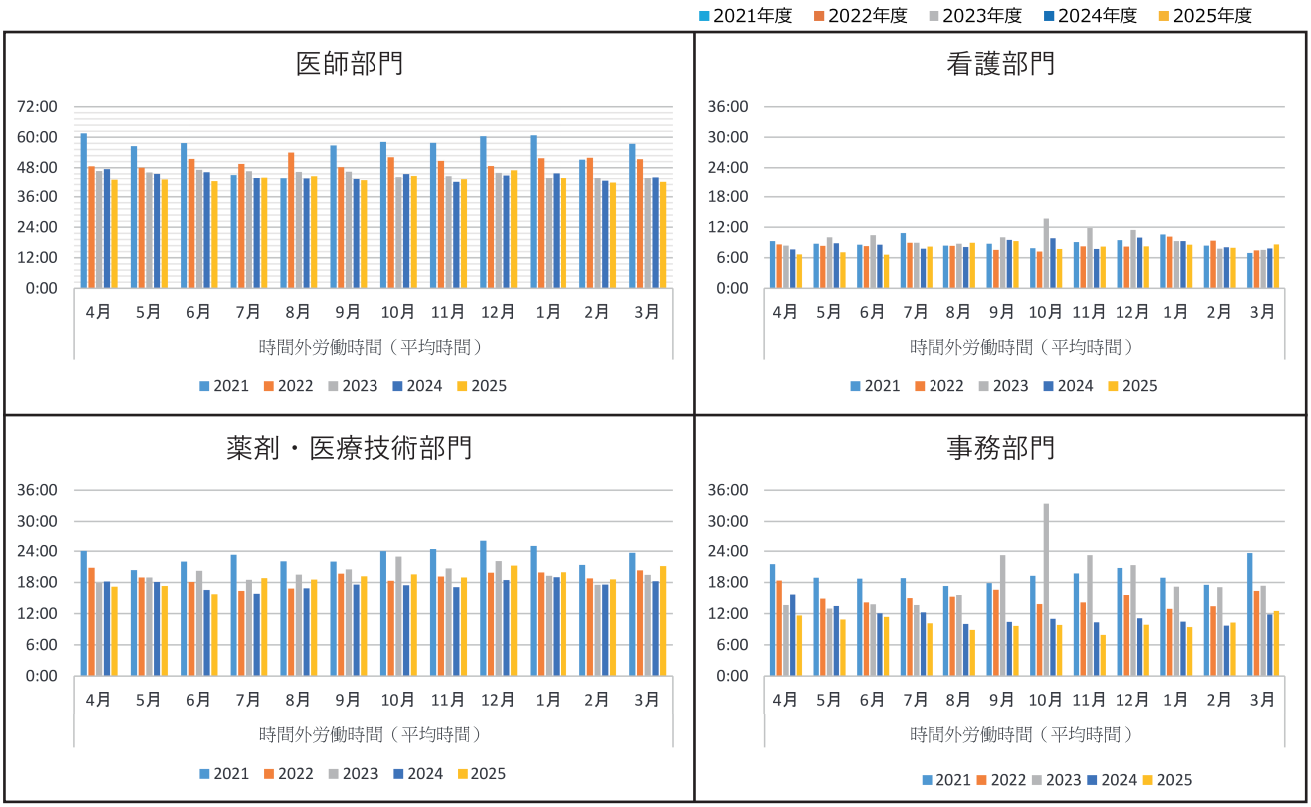
二、その他 【地域での予防啓発活動】

2025/8/9	J リーグ×ハートの日 ハートはともだち～ほめてあげよう、自分のハート～をテーマに、心臓病予防に関するアンケートの実施、予防啓発サイトの紹介、パンフレットの配布を行った。	

二、その他　【執筆・取材・表彰等】

2025/4	「病院経営羅針盤」に院長 磯部光章のインタビューが掲載される テーマ「三位一体改革で経営再建 医療の質と満足度を追求する循環器専門病院」
2025/4	日本循環器学会コメディカル賞を受賞 リハビリテーション科 小林大地（最優秀賞）・平川 功太郎（優秀賞）
2025/10	第 45 回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会 YIA セッション最優秀賞を受賞 循環器内科 蛭間貴司
2025/11	院長 磯部光章「集中」に巻頭インタビュー掲載 テーマ「高度な先進的循環器診療を目指す病院改革 ～患者支援の充実で患者満足度も向上～」
2025/12	日本循環器学会ダイバーシティ推進委員会より第 19 回 Travel Award for Women Cardiologists AHA2025 の表彰　循環器内科 新保麻衣
2025/12	第 9 回日本循環器理学療法学会学術大会 ミライ Award 最優秀賞を受賞 リハビリテーション科　小林大地
2026/2	第 2 回医療安全全国共同行動ベストアクション受賞　看護部 大貫明子
2026/2	第 279 回日本循環器学会 Clinical Research Award 最優秀賞受賞 循環器内科 河合冬星 Case Report Award 優秀賞受賞 循環器内科 外田望

時間外労働時間の推移

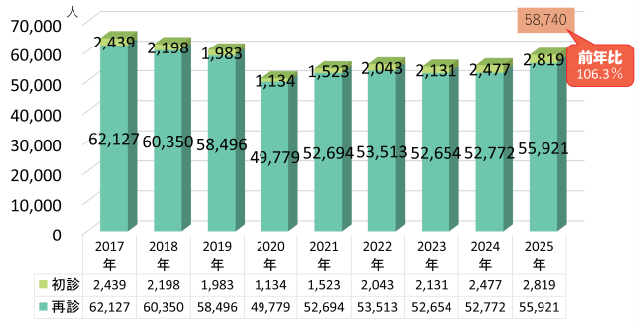


(B)　榊原記念病院附属クリニック（院長：理事　井口信雄）

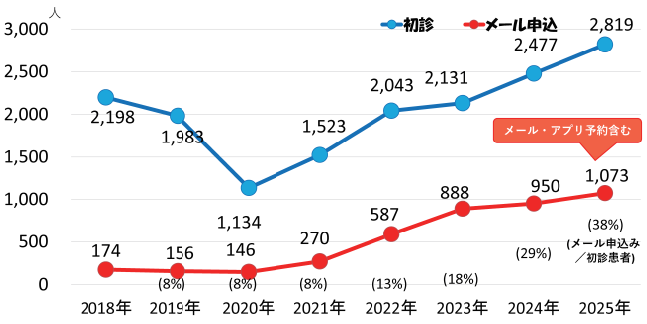
1.　医療提供

(1)　診療実績

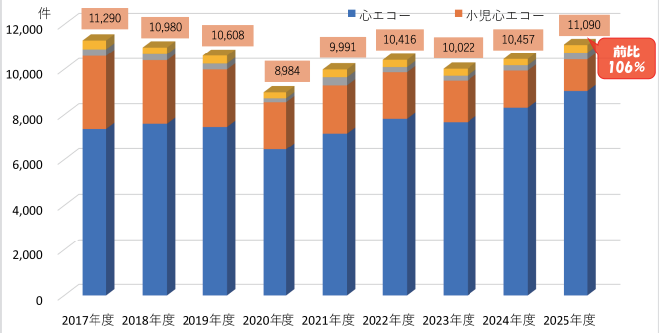
外来患者数



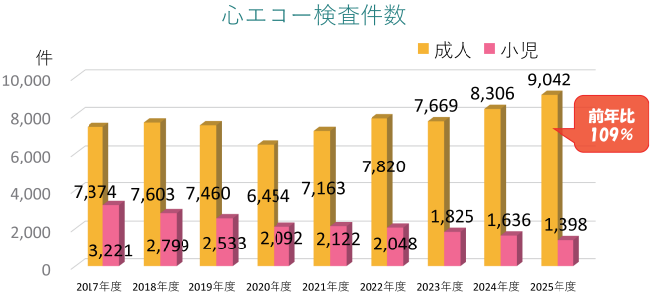
外来初診患者数



エコー検査件数（心エコー・小児心エコー・頸動脈・末梢血管）

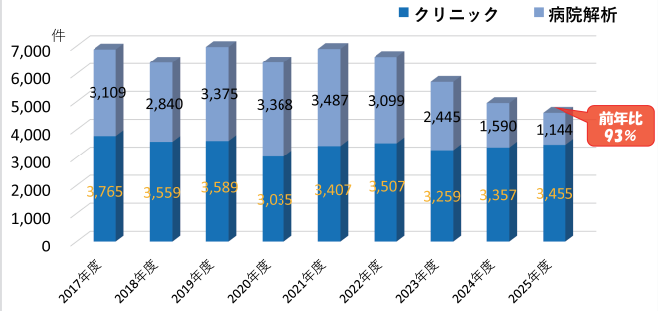


心エコー検査件数



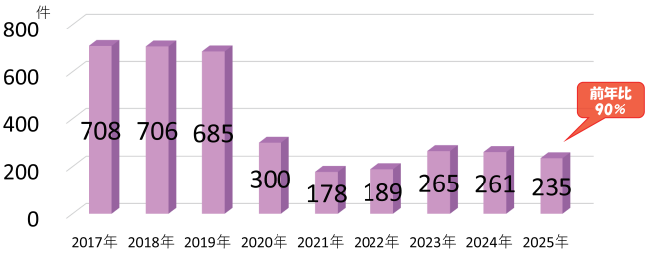
初診患者については**当日に検査**ができるように対応し、コロナ禍以前の検査件数を上回っている。

ホルター心電図検査件数



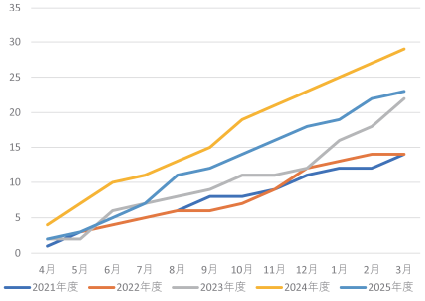
外注の7日間ホルター検査が増加し、**従来のホルター心電図検査件数は横ばいであり、病院からの解析件数は減少**

運動負荷件数（トレッドミル+CPX）

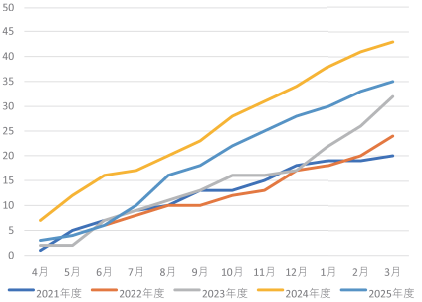


日帰り下肢静脈瘤手術

下肢静脈瘤高周波手術件数（累積）



下肢静脈瘤高周波手術本数（累積）

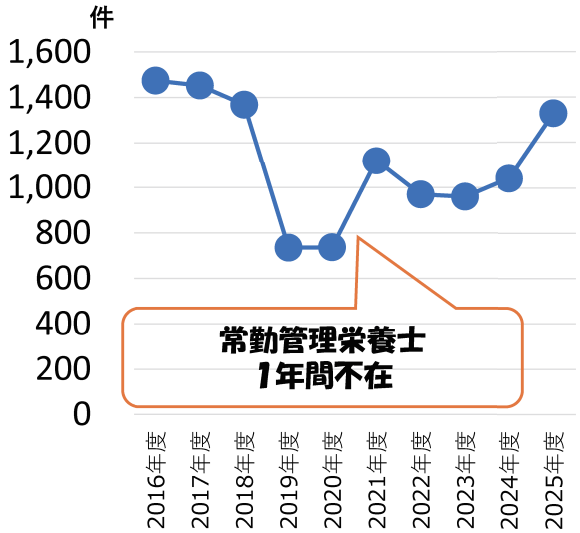


高い診療単価が得られる**下肢静脈瘤の高周波治療**は一定の件数を維持している。

栄養指導件数

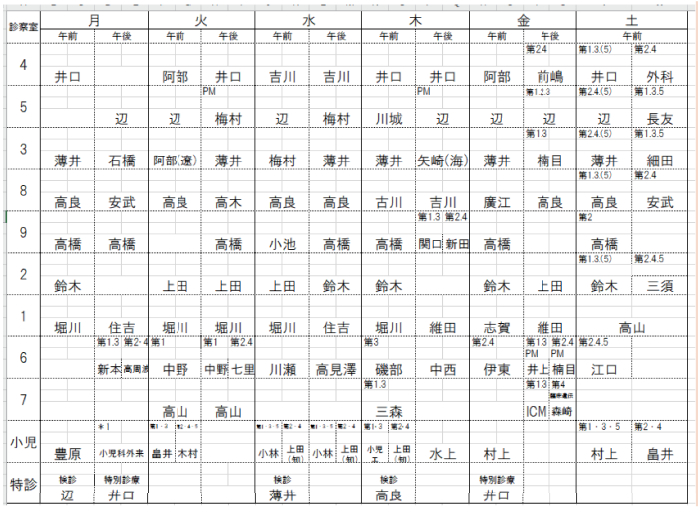
年度	個人	集団	ドック	合計
2016	1,269	85	120	1,474
2017	1,222	69	161	1,452
2018	1,064	71	233	1,368
2019	509	53	173	735
2020	687	0	50	737
2021	1,038	0	81	1,119
2022	864	0	105	969
2023	883	17	59	959
2024	934	22	86	1042
2025	1224	25	79	1328

コロナ禍は集団指導を実施できず



栄養食事指導の件数は増加している。

専門外来



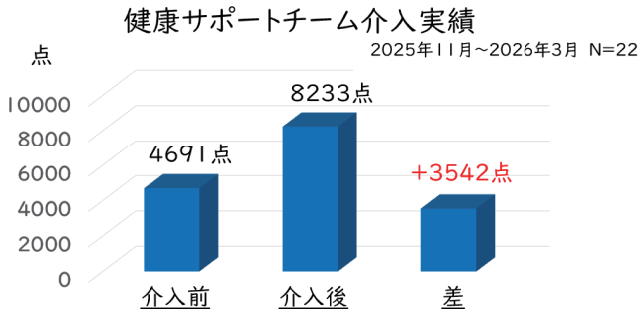
- カテーテル治療外来
- 不整脈専門外来
- 心不全外来
- 肥大型心筋症外来
- 高安動脈炎・心臓サルコイドーシス・免疫疾患外来
- 末梢血管外来
- 臨床遺伝外来
- 失神外来
- **禁煙外来**
- **成人先天性心疾患外来**
- **漢方外来**
- **胎児心エコー**

末梢血管外来枠および**静脈瘤日帰り手術枠**を増枠し、**禁煙外来**も再開した。また2025年度から**不整脈専門外来**の増枠、**成人先天性心疾患外来**および**漢方外来**を新設した。**胎児心エコー**も開始した。

生活習慣病の管理

健康サポートチームの立ち上げ

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、医療事務の多職種でチームを構成し、生活習慣病の管理を行う。



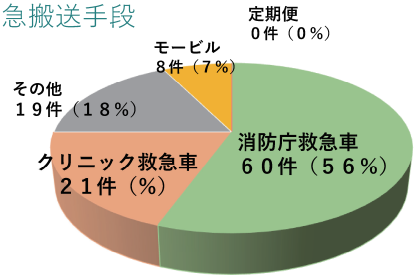
計22名登録し、看護師・栄養士の支援を開始しています。
患者満足度に加え、加算においても増加しており、さらなる拡大を考えております。



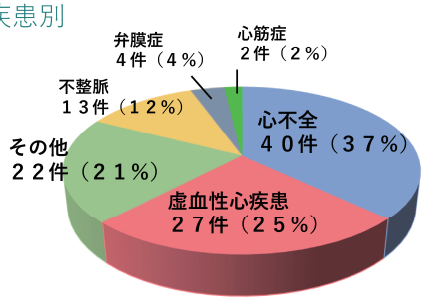
(2)　榊原記念病院との連携

救急搬送

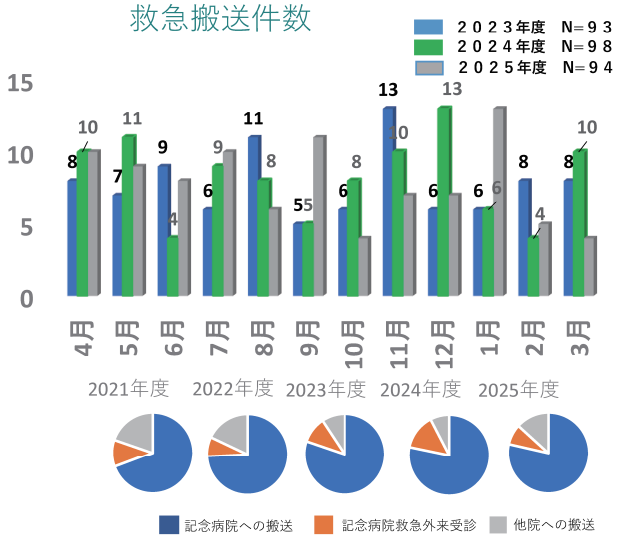
救急搬送手段



疾患別



救急搬送件数



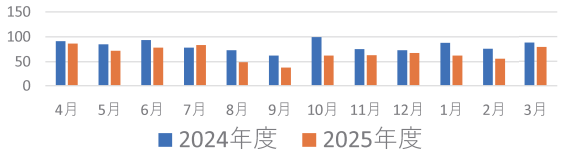
看護師業務

- トリアージ/問診/検査説明/
- 入退院支援介入
- 救急対応
- 日帰り手術介助
- 救急処置対応
- 救急搬送同乗
- 療養支援
  （生活習慣病・虚血性心疾患再発予防・心不全セルフケア支援
  地域包括支援センターとの連携）
- 健康サポートチーム活動
- 電話相談対応：患者からの有症状時の相談対応
- 心臓デバイス植込み患者対応

・植込み型心臓不整脈デバイス認定士：3名
・心不全療養指導士：3名
・循環器病予防指導士：1名
・両立支援コーディネーター：5名



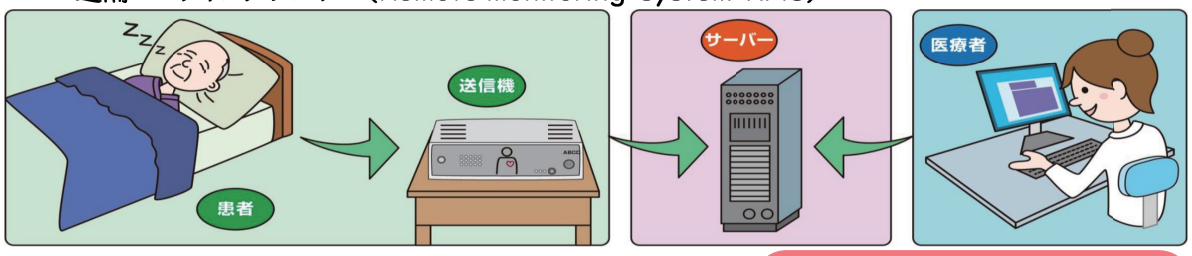
遠隔モニタリング加算



看護師業務

心臓デバイス植込み患者のフォローアップ

- ペースメーカ外来受診　：12回/月、約800名/年
- 遠隔モニタリングシステム（Remote monitoring system：RMS）



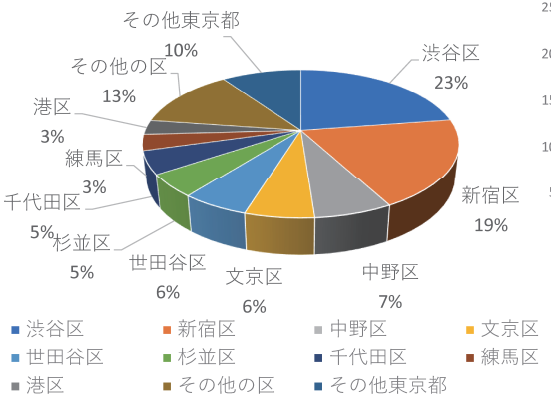
・RMS 登録者数：約800名（4社合計）
　定期送信件数：約100件/月
　スケジュール外送信件数：約120件/月

・RMS業務：担当制
　毎日看護師がチェック
・アラート送信時
　デバイス認定士に相談

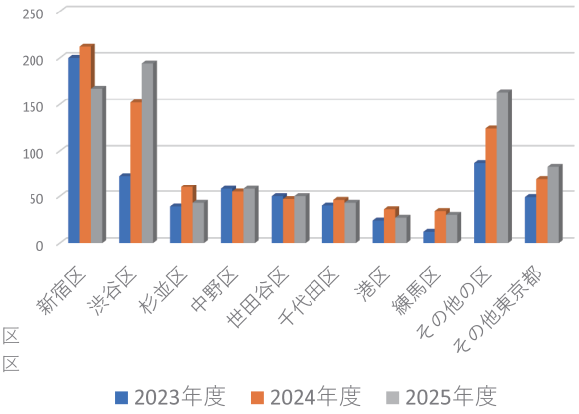
(3) 地域連携

紹介元の内訳

東京都内訳



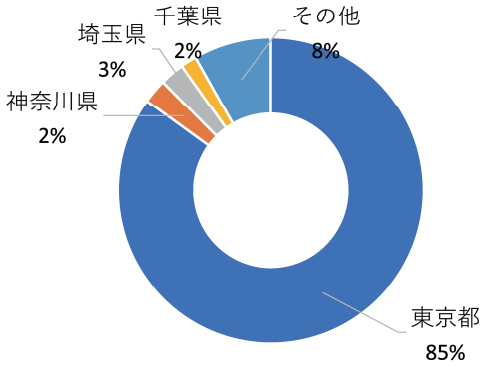
一昨年度からの比較



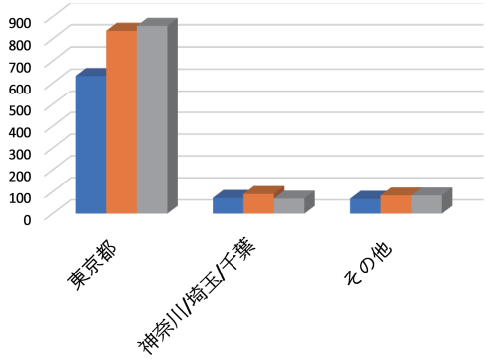
紹介元は新宿区、渋谷区、中野区で半数近くを占めるが、23区以外の東京都も増加した。

紹介元の内訳

地域内訳



一昨年度からの比較



紹介元の85%が東京都内であり、2割は都外からである。都内は増加傾向であるが、都外は横ばいである。

医師会／近隣医療機関との連携

- **医療連携ホットライン**設置（当院への紹介）
- **近隣基幹病院へのホットライン**使用（JR東京総合病院 / 東京医大 / 東京女子医大）
- **健診機関**との連携（**心エコー検査を当院で担当**）
- **渋谷区医師会**との連携（**夜間外来・休日診療**への協力 / **学術委員会（糖尿病・循環器連携委員会）**への参加）
- **研究会の開催**

  メーカー共催により当クリニックや病院の医師が座長、講演演者となる研究会を**クリニックの会議室**を利用して開催し、近隣の連携先との意見交換を行っている。



(4) 疾患予防の啓発活動

出張講座（ボランティア）

前年度に引き続き、地域のコミュニティで循環器疾患予防の啓蒙活動を行い、2025年度は新宿区の地域高齢者交流施設で開催した。





2026.2.2　ささえーる中落合

(5) 学会活動など

学会発表・論文・書籍

学会発表

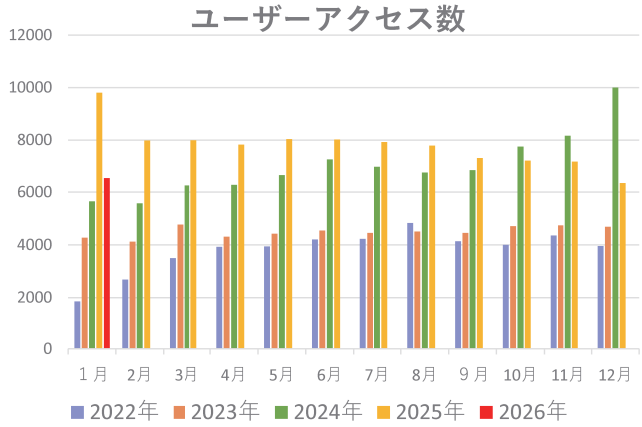
部　門	発表者	演題名	学会・研究会	開催日	開催場所
医師	安部　元	抗凝固療法における塞栓と出血のバランス	Meet The Specialist	2025/10/21	全国 Web
医師	安部　元	ATTR-CM 治療薬のエビデンスと当院での心アミロイドーシスの診断経験	ATTR-CM 診断における シンチグラフィ検査の有用性と 実地医家での診断方法	2025/10/27	全国 Web
医師	辺　泰樹	心筋内脂肪浸潤と心尖部誘導陰性T波との関係についての検討	第73回日本心臓病学会学術集会	2025/9/19	高知市文化プラザ　かるぽーと
医師	Yasuki Hen	Impact of Ring-like LGE on CMR on Etiologic Backgrounds and Life-threatening Arrhythmic Events in Patients with Non-ischemic Cardiomyopathy	第90回日本循環器学会学術集会	2026/3/22	福岡国際会議場
検査科	前田知子	How to Session2：心肺運動負荷試験	第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2025/7/20	ポートメッセなごや
検査科	前田知子	”リアル CPX ”　CPX を実施するうえでの注意点	第10回関東甲信越支部地方会	2025/11/1	東京科学大学　M&D タワー
検査科	前田知子	心肺運動負荷試験	認定 NPO 法人ジャパンハートクラブ 第93回運動処方講習会	2025/4/19･27	Web LIVE 配信
検査科	前田知子	検査前準備・検査中の注意事項	認定 NPO 法人ジャパンハートクラブ 第95回運動処方講習会「入門編」	2025/11/30	Web LIVE 配信
検査科	前田知子	心肺運動負荷試験	認定 NPO 法人ジャパンハートクラブ 第96回運動処方講習会	2025/12/14	Web LIVE 配信
検査科	前田知子	心肺運動負荷試験実施法と呼気ガス指標解説	認定 NPO 法人ジャパンハートクラブ 第98回運動処方講習会「入門編」	2026/2/8	Web LIVE 配信
看護部	長町千里	植込み型心臓不整脈デバイス認定士制度部会	第70回日本不整脈心電学会学術集会		石川県
看護部	長町千里	植込み型心臓不整脈デバイス認定士を活用した遠隔モニタリングシステムでのアラート送信に対するレポートライン構築の試み	第18回植込みデバイス関連冬季大会 一般演題演者	2026/2/21	福岡県北九州市
看護部	長町千里	クリニックにおける心臓不整脈デバイス認定士を持つ看護師のデバイスナースとしての役割	第19回植込みデバイス関連冬季大会 シンポジウム演者	2026/2/21	福岡県北九州市

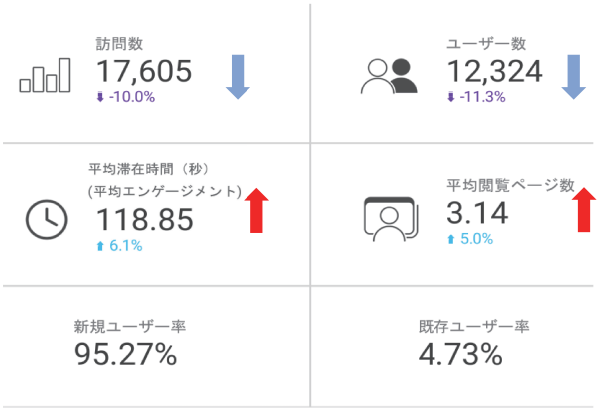
論文

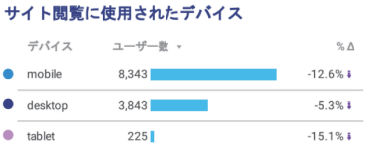
部　門	著　者	共著者	タイトル	雑誌名	発行日
医師	安部　元	井口信雄、鈴木康裕、大滝裕香、七里守、磯部光章	Chest X-ray–guided SPECT-only quantification as an adjunctive approach for wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy	Heart and Vessels	2026 Feb 5, Online ahead of print.

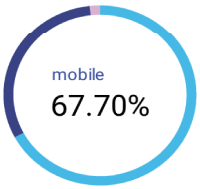
2. 情報 / 調査

ホームページへのアクセス









2022年からの**ホームページアクセス数**の推移では、今年度から**やや頭打ちの傾向**となった。
しかし閲覧ページ数と平均滞在時間が上昇しており、**じっくりと見られている傾向**がわかる、また**95.3%が新規ユーザー**であり、使用されたデバイスは**Mobileが67.7%**であった。

3. 広報

広報誌の刊行

連携施設との情報共有のために広報誌『はーとなび』を刊行

胎児心エコ検査開始のお知らせ

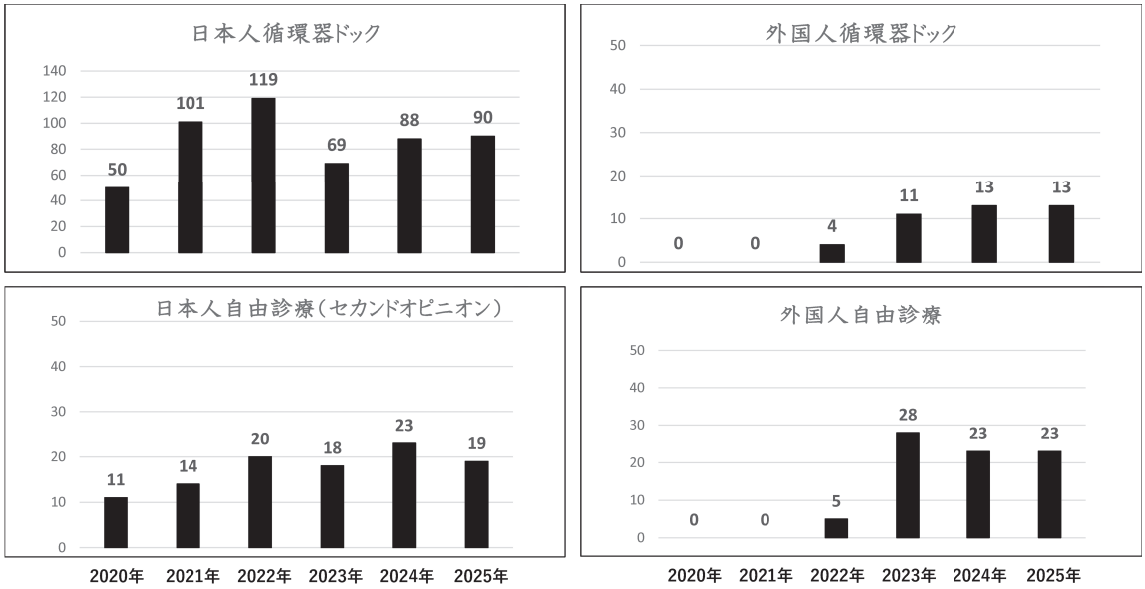


漢方外来開始のお知らせ

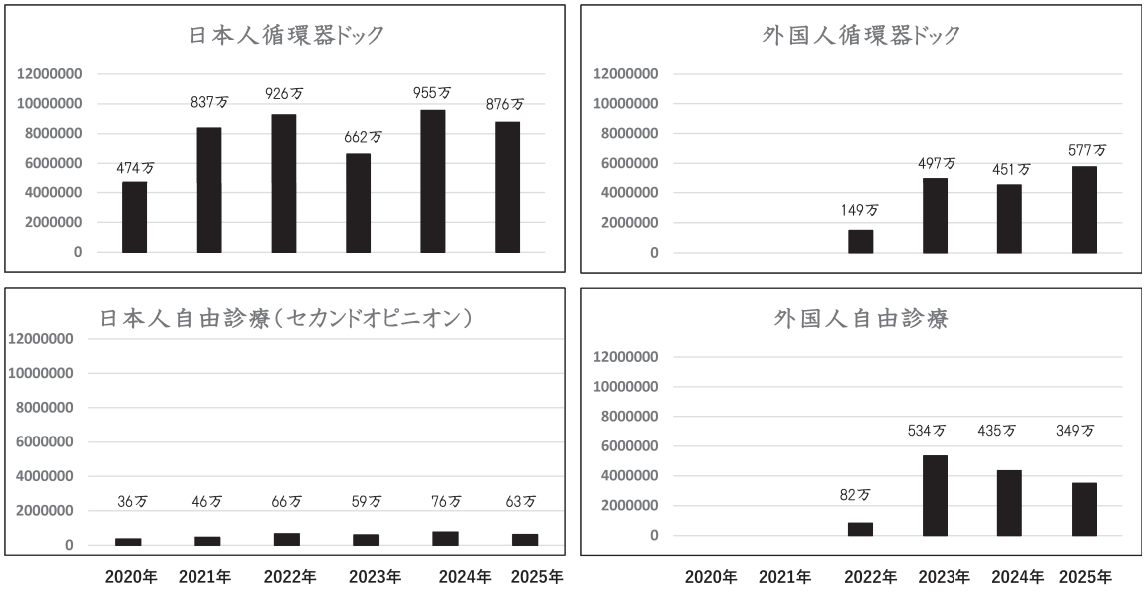


検診センター

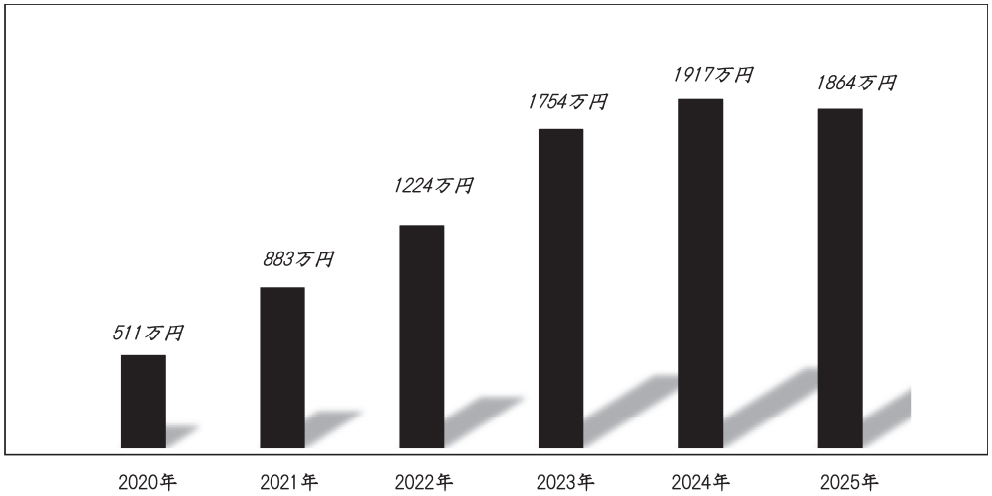
1. 検診センター受診者数（診療内容別受診者数）



2. 検診センター診療内容別収益



3. 検診センター全収益



⑹　研究所・研修所（所長：研究委員　細田徹）

テーマ	戦略	成果
【研究所】 研究体制の見直し	○臨床研究 ・啓蒙・啓発・教育 ・研究立案支援 ・学会主導レジストリ ○情報発信 ・ホームページの利用 ・研究成果発表 ・業績データ管理 ・業績集発刊 ○研究費 ・研究費獲得に向けた啓発 ・榊原院内研究助成の推進 ・非常勤研究員制度の推進 ・ＪＫＡ補助事業活用	・財団職員の研究活動を支援する榊原院内研究助成について、春に一次募集、秋に二次募集を実施した。また記念病院に勤務実績のある外部医師を非常勤研究員として採択した。 ・論文掲載や学会発表に関する新たな助成制度を創設し、次年度から施行予定である。 ・5月から10月の木曜に、財団内を対象とするセミナーとして、榊原院内研究助成対象者及び非常勤研究員による計画発表会、並びに各部署から最新の話題を提供頂く「榊原トピックス」を放映した。 ・統計解析や学会発表等に関するオリジナル講義動画を財団職員向けにオンデマンドで発信し、研究活動を多面的に支援した。 ・従来からの学会主導レジストリを継続して実施した。ホームページで財団職員の研究業績を公表し、また財団内で実施中の研究をウェブ上で公表し、ペーパーレス化を実現した。 ・ＪＫＡ補助事業に、2026年度分も新規応募中である。
【研修所】 研修体制の統括運営	○情報発信 ・ホームページの利用 ○職員・院外講習会運営の支援	・財団職員を対象とする種々の研修動画をオンデマンドで提供し、新規・中途入職者を含めて継続的な教育・研修を可能とする体制を維持している。 ・国内及び海外出張規程を改訂し、次年度より職員の研修等を更に充実させる体制を整えた。 ・ボストン小児病院、及び全米の医療機関でスタッフとして活躍する日本人医師の協力を得て、全国の小児循環器医療従事者を対象とするセミナーシリーズを継続開催した。次年度は国内の機関の協力も得て、内容を刷新して実施する予定である。

５．理事会・評議員会

（A）2025年6月11日（水）午後1時30分より WEB 会議システムによる理事会を開催。理事現在数18名のうち出席15名、監事2名出席。

報告事項１．業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
報告事項２．人事関係
報告事項３．2025年度公募研究助成採択結果報告
第１号議案　「2024年度事業報告書ならびに貸借対照表及び正味財産増減計算書等承認の件」
第２号議案　「評議員会開催の件」

（B）2025年6月26日（木）午後1時30分より WEB 会議システムによる評議員会を開催。評議員現在数14名のうち出席9名、監事出席1名。

報告事項１．業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
報告事項２．人事関係
第１号議案　「2024年度事業報告書ならびに貸借対照表及び正味財産増減計算書等承認の件」

（C）2025年9月3日（木）書面決議による臨時理事会を開催。理事18名、監事2名。

第１号議案　「（公財）JKA（旧自転車振興会）に2026年度補助金交付要望書提出の件」

（D）2026年3月11日（水）午後1時30分より WEB 会議システムによる理事会を開催。理事現在数18名のうち出席15名、監事2名出席。

報告事項１．業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
報告事項２．人事関係
第１号議案　「榊原記念病院院長任期更新の件」
第２号議案　「2026年度事業計画書ならびに収支予算書承認の件」
第３号議案　「2026年度医療機器等の更新・購入資金調達計画」
第４号議案　「緊急借入金枠（特別当座貸越）契約更新の件」
第５号議案　「評議員選定委員会委員選任の件」
第６号議案　「評議員候補者推薦の件」
第７号議案　「特定費用準備資金等取扱規程の改定の件」
第８号議案　「評議員会招集の件」

（E）2026年3月27日（金）午後1時30分より WEB 会議システムによる評議員会を開催。評議員現在数14名のうち出席12名、監事1名出席。

報告事項１．業務執行状況報告・財団本部及び臨床研究施設の運営状況
報告事項２．人事関係
報告事項３．評議員選定委員会委員選任の報告
報告事項４．評議員候補者の報告
第１号議案　「2026年度事業計画書ならびに収支予算書承認の件」
第２号議案　「2026年度医療機器等の更新・購入資金調達計画」
第３号議案　「定款の一部改定の件」

６．公益法人の運営体制の充実をはかるための取組

（１）評議員選定委員会の設置

評議員の選任及び解任については、理事等からの実質的な影響力行使を排除した評議員選定委員会を設けている。

定款に、評議員の選任及び解任は、評議員選定委員会において行う旨の条文を定め、理事会又は評議員会から推薦された評議員候補者を、外部委員2名を含む5名の評議員選定委員で構成された委員会で、審議して選任している。

（２）内部通報窓口の設置

公益通報者保護法に基づく「内部通報に関する規程」を定め、本法人における公益通報に関する通報窓口を設置し、公益通報に対し適切に対応できる体制を整備している。

通報窓口は「内部窓口」と「外部窓口（弁護士）」を設置すると共に、当該報告をしたことを理由として通報者が不利な取扱いを受けないことを確保するための体制を整えている。通報窓口の周知の為、ホームページに「内部通報窓口の設置案内」を掲載すると共に、Email アドレスも掲載している。

（３）職員向け広報誌を活用した役員等との情報共有促進

当法人の公益活動の柱である病院事業において、病院内外への広報誌を発行し情報発信に努めているが、こうした広報誌を役員等にも直接送付し情報共有に努めている。

特に職員向け広報誌「心をつなぐ」は、院内での出来事、経営陣の考えや想い、各現場の現状・取り組みを職員が共有できることを目的に発行されており、外部役員（理事・監事・評議員）や研究委員会の外部委員等における事業活動の理解促進に一役買い、ご意見・ご感想や励まし等がタイムリーに寄せられるなど役員等とのコミュニケーションの活性化にも役立っている。

７．寄附関係

当会の目的、事業にご賛同の方々から、多額のご寄付を頂きまして誠に有り難うございました。お陰様で、臨床研究施設、基礎研究施設とも緊要な設備を整えることができました。

2026年度に開催予定の学会、シンポジウム等も準備を進めております。また、当会に基礎をもつ研究会も所期の業績をあげております。

ご寄附、ご後援を賜りました皆様に謹んで御礼申し上げます。（ご芳名 次頁に掲載、順不同、敬称略）

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しません。

※事業報告書内の所属・肩書は、2026年3月31日付のものを記載しています。